調査結果（速報）の概要

目次

調査結果（速報）の概要について・・・・・・2
1　集計対象者の状況・・・・・・・・・・・・2
(1) 性・年齢階級・・・・・・・・・・・・・2
(2) 配偶者の有無・・・・・・・・・・・・・3
2　世帯の状況・・・・・・・・・・・・・・・3
(1) 世代・・・・・・・・・・・・・・・・・3
(2) 世帯類型・・・・・・・・・・・・・・・4
(3) 世帯人員・・・・・・・・・・・・・・・5
(4) 世帯員の状況〔複数回答〕・・・・・・・5
3　家族・親族等の介護・世話・見守り・・・6
などをしているか（その相手）〔複数回答〕
4　子供の状況・・・・・・・・・・・・・・・7
(1) 子供の人数・・・・・・・・・・・・・・7
(2) 子供との同居の有無・・・・・・・・・・8
(3) 最も近くに住んでいる子供との距離・・9
5　健康状況・・・・・・・・・・・・・・・・10
(1) 健康意識・・・・・・・・・・・・・・・10
(2) 現在かかっている傷病〔複数回答〕・・・10
(3) 健康のために気をつけていること・・・11
〔複数回答〕
6　食事・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
(1) 食事の状況・・・・・・・・・・・・・・12
(2) 誰かと共に食事をとる頻度・・・・・・12
(3) 食事のバランス・・・・・・・・・・・・12
7　ＡＤＬ（日常生活動作）の状況・・・・・13
8　終末期に受けたい医療・・・・・・・・・14
(1) 終末期に受けたい医療の内容、・・・・・14
医療を受けたい場所
(2) アドバンス・ケア・プランニング・・・14
（ＡＣＰ）の認知度
(3) 終末期に受けたい医療について・・・・15
話し合ったことがあるか
9　介護サービス・介護予防など・・・・・・16
(1) 要介護認定（要支援認定を含む。）・・・16
の有無
(2) 要支援・要介護度・・・・・・・・・・・16
(3) 対象者本人の介護をしている人・・・・17
〔複数回答〕
(4) 運動の状況・・・・・・・・・・・・・・18
(5) フレイルの認知度・・・・・・・・・・・19
(6) フレイルの予防方法の認知度・・・・・19
10　認知症について不安に感じていること・・20
〔複数回答〕
11　日常生活支援サービス・・・・・・・・・・21
(1) 日常生活支援サービスの利用状況・・・21
〔複数回答〕
(2) 日常生活支援サービスの利用意向・・・22
〔複数回答〕
12　住まいの種類・・・・・・・・・・・・・・23
13　高齢期の住まい・・・・・・・・・・・・・24
(1) 介護が必要になったときの・・・・・・24
高齢期の住まい
(2) 介護などの支援が必要になったときに・24
自宅以外の住まいに支出できる費用
14　インターネットや情報通信機器の・・・・25
利用状況
15　コミュニケーション・・・・・・・・・・・25
(1) 外出の頻度・・・・・・・・・・・・・・25
(2) 交流の頻度・・・・・・・・・・・・・・26
(3) 近所付き合いの程度・・・・・・・・・・27
(4) 地域とのつながり・・・・・・・・・・・27
16　生きがい・・・・・・・・・・・・・・・・28
(1) 生きがいを感じているか・・・・・・・28
(2) 生きがいを感じるとき〔複数回答〕・・・28
17　心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕・・29
18　地域包括支援センターの・・・・・・・・30
認知度と利用状況
19　１年間に行った社会参加の状況・・・・・31
〔複数回答〕
20　就労・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
(1) 最長職業（雇用形態）・・・・・・・・・32
(2) 収入のある仕事の有無・・・・・・・・32
(3) 収入のある仕事の内容・・・・・・・・33
(4) 仕事をしている理由〔複数回答〕・・・・33
(5) 理想の就業年齢・・・・・・・・・・・・34
（何歳頃まで働ける社会が理想か）
21　経済状況・・・・・・・・・・・・・・・・35
(1) 収入の種類〔複数回答〕・主な収入源・・35
(2) 本人の年収・・・・・・・・・・・・・・36
(3) 世帯の貯蓄・・・・・・・・・・・・・・36
22　災害に備えた対策〔複数回答〕・・・・・・37
23　高齢者に対する必要な施策や支援・・・・38
〔複数回答〕
24　新型コロナウイルス感染症・・・・・・・39
に関する自由意見

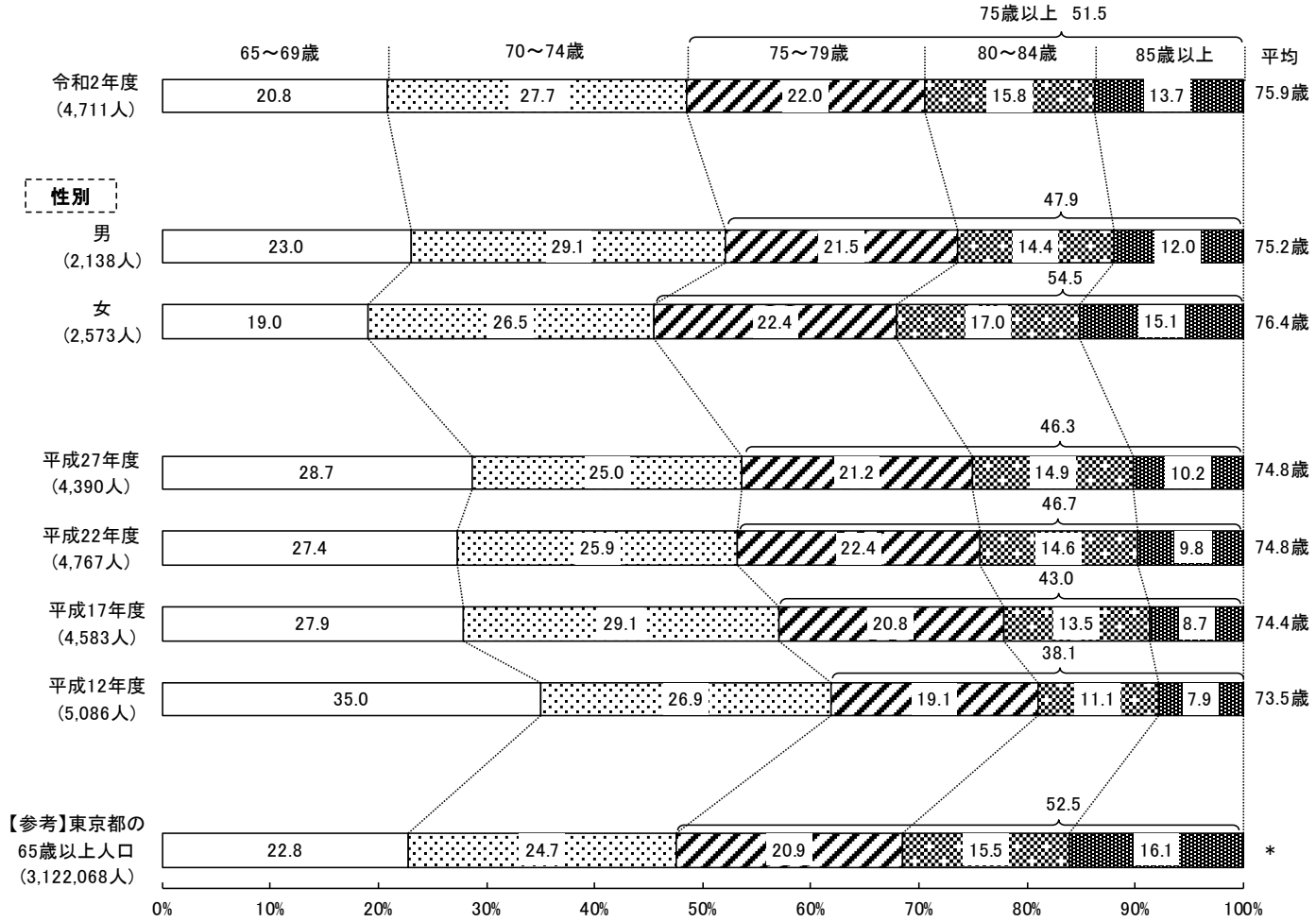
調査結果（速報）の概要について

・集計対象者　4,711 人の回答結果を掲載している。
　（回答者　対象者本人 3,904 人、代理回答 302 人、本人・代理回答の別不明 505 人）
・「0.0」は四捨五入により数値を丸めた結果、表示すべき最下位の桁の１に達していないもの、「-」は皆無又は該当数値なしのもの、「＊」は該当数値が不詳又は不明なものを示す。
・比率の単位は「%」、実数の単位は「人」又は「世帯」である。
・比率は小数点以下第２位を四捨五入しているため、内訳の計と合計は必ずしも一致しない。
・過去に同様の設問がある項目については、できる限り遡って調査結果を掲載している。
・結果は速報値を用いているため、令和３年 10 月発表予定の確定報告では一部修正する可能性がある。
・平成 27 年度までの調査は全て調査員による聞き取り調査（面接他計式）で実施していたが、令和２年度調査は郵送による自計式へと調査方法を変更した。そのため、令和２年度と平成 27 年度以前の調査結果を比較する場合には、異なる調査方法によって得られた回答結果であることに注意が必要である。

1　集計対象者の状況

（1）性・年齢階級

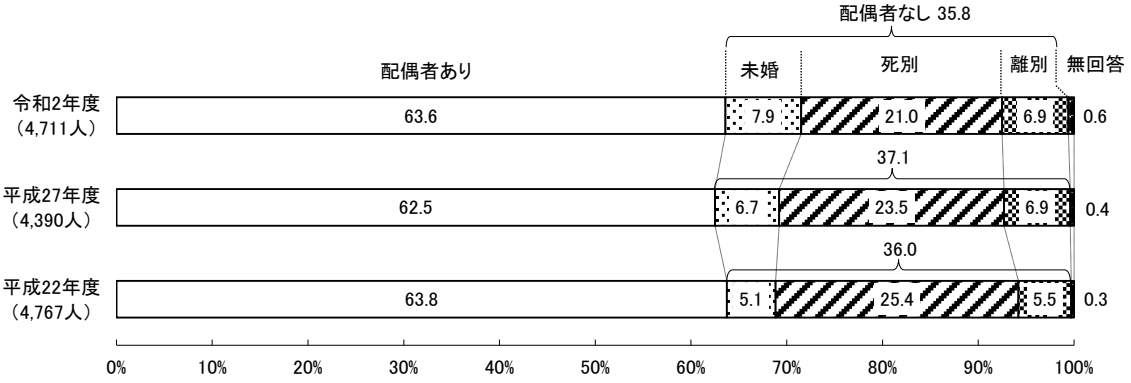
集計対象者の平均年齢は 75.9 歳であり、75 歳以上の後期高齢者の割合は 51.5%となっている。



注１）性別の「その他」については、該当者がいなかったため、省略した。
　２）【参考】は、「住民基本台帳による東京都の世帯と人口（令和２年１月１日）」（東京都総務局）による。

（2）配偶者の有無

配偶者の有無を聞いたところ、「配偶者あり」の割合が 63.6%、「配偶者なし」が 35.8%となっている。

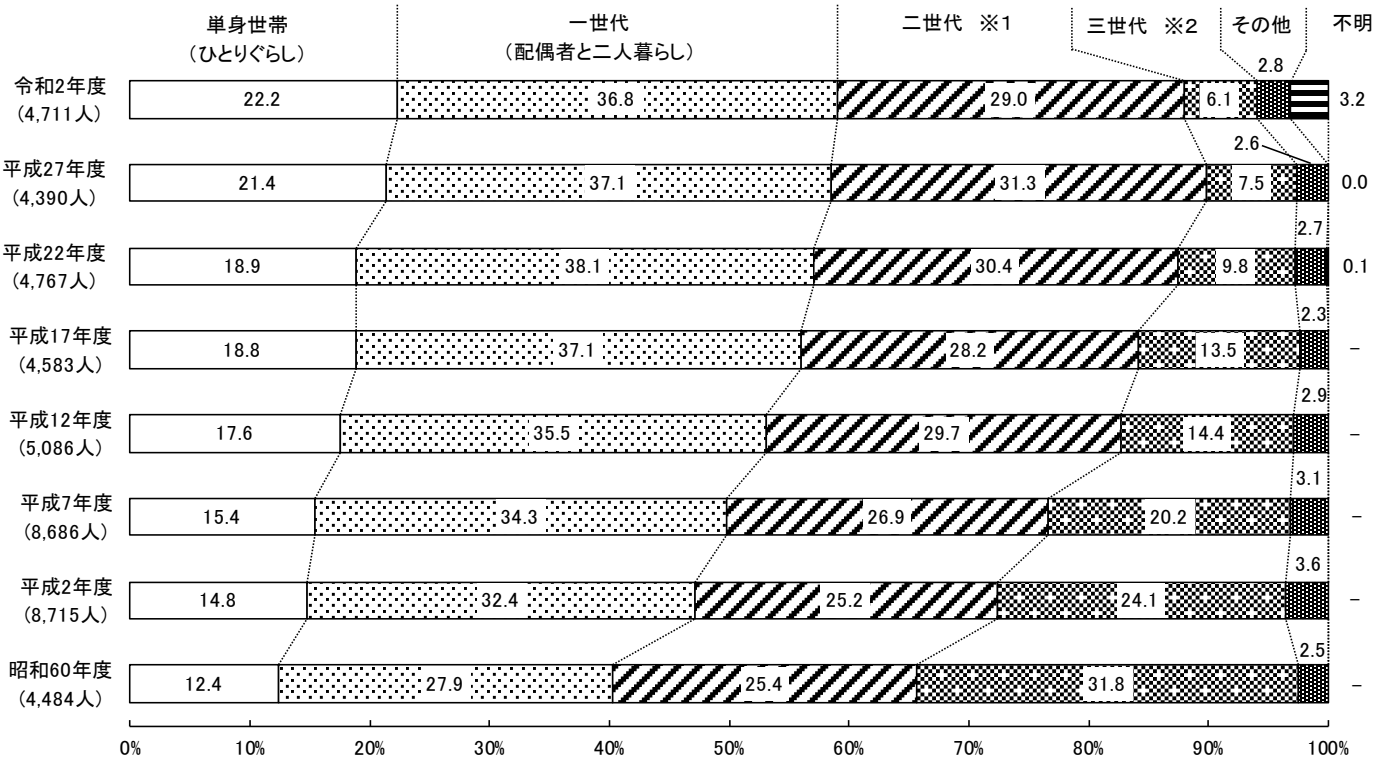


2　世帯の状況

（1）世代

世帯構成を世代別にみると、「一世代(配偶者と二人暮らし)」の割合が 36.8%で最も高くなっている。

昭和 60 年度調査と比べて、「単身世帯（ひとりぐらし)」は 9.8 ポイント増加し、22.2%となっている。また、「三世代」は 25.7 ポイント減少し、6.1%となっている。



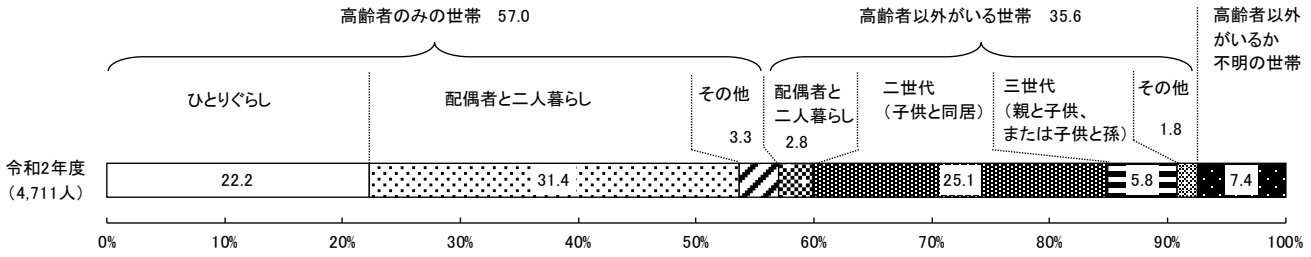
注）※１は、「二世代（親と同居)」と「二世代（子供と同居)」の合算値である。

※２は、「三世代（親、子供と同居)」と「三世代（子供、孫（またはその配偶者）と同居)」の合算値である。

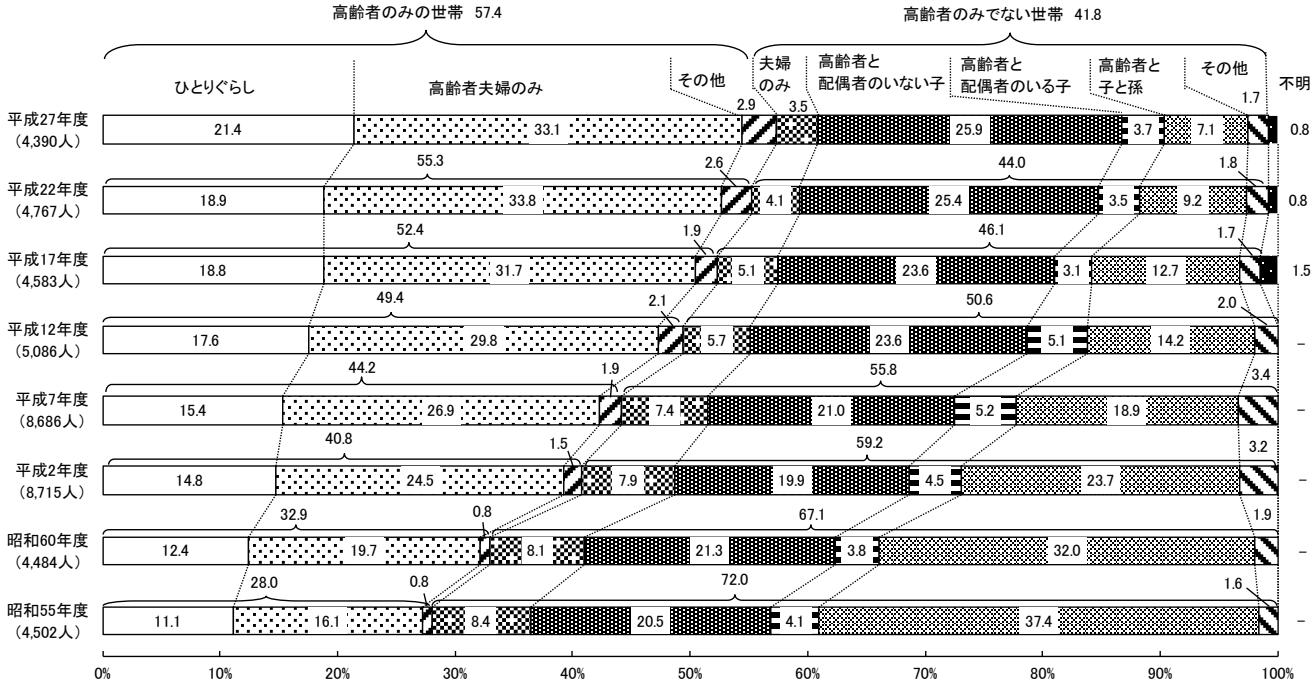
（2）世帯類型

世帯構成を世帯類型別でみると、「高齢者のみの世帯」の割合は 57.0%、「高齢者以外がいる世帯」が 35.6%となっている。

高齢者以外がいる世帯では、「二世代（子供と同居）」の割合が回答者全体の 25.1%で最も高くなっている。



【参考】



注１）高齢者は、65 歳以上の世帯員（本人を含む。）を指す。

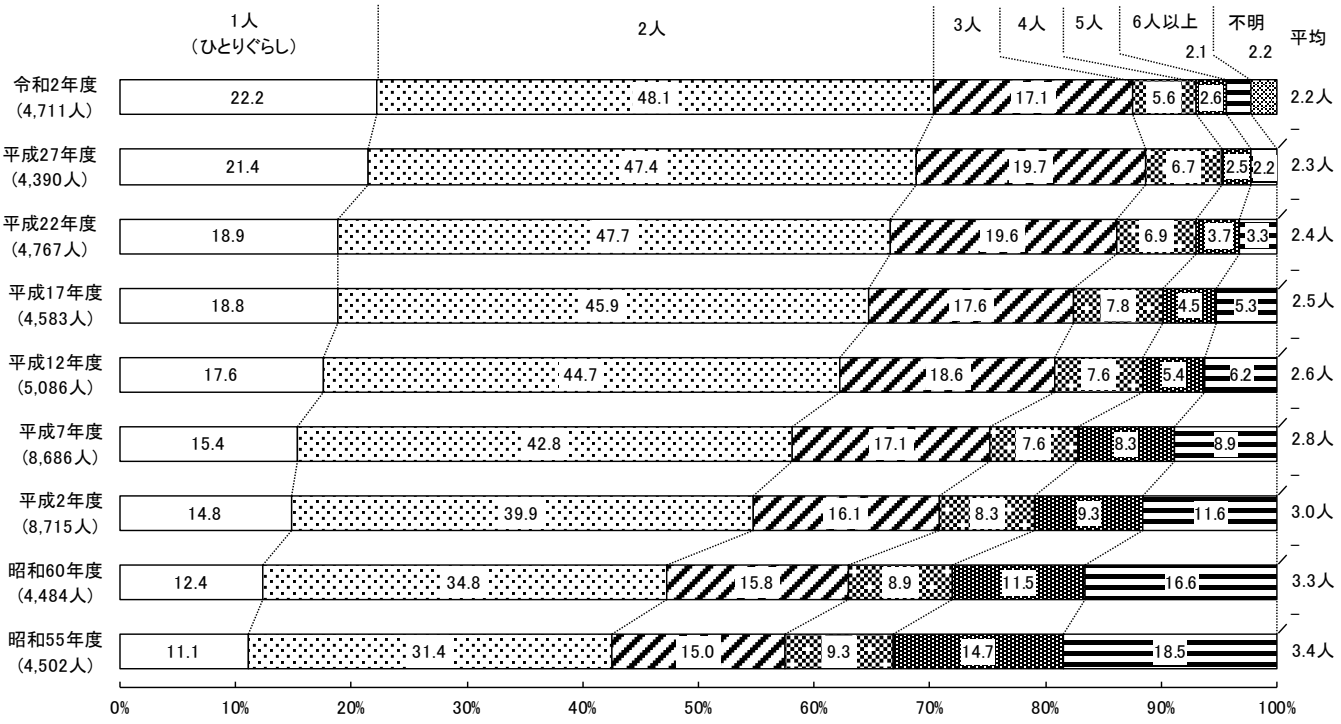
２）令和２年度調査では、世帯員の調査方法を変更したため、これまでの世帯類型の分類から変えている。

（3）世帯人員

世帯人員の平均は 2.2 人で、昭和 55 年度の調査開始以来、減少を続けている。

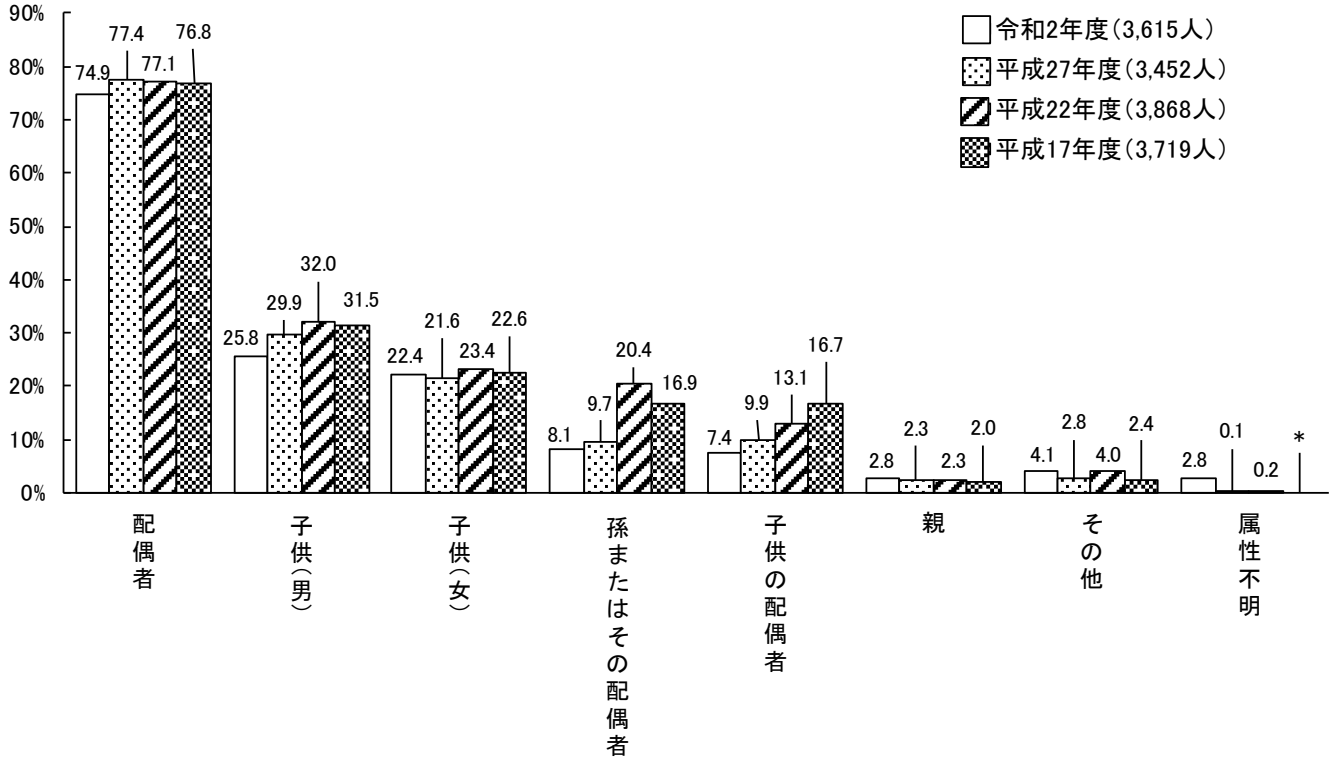
世帯人員は「２人」の割合が 48.1％で最も高く、次いで「１人」が 22.2％、「３人」が 17.1％となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「３人」の割合は 2.6 ポイント減少している。



（4）世帯員の状況〔複数回答〕

ひとりぐらし以外の人（3,615 人）に世帯員の状況を聞いたところ、「配偶者」の割合が 74.9％で最も高く、次いで「子供（男）」が 25.8％、「子供（女）」が 22.4％となっている。



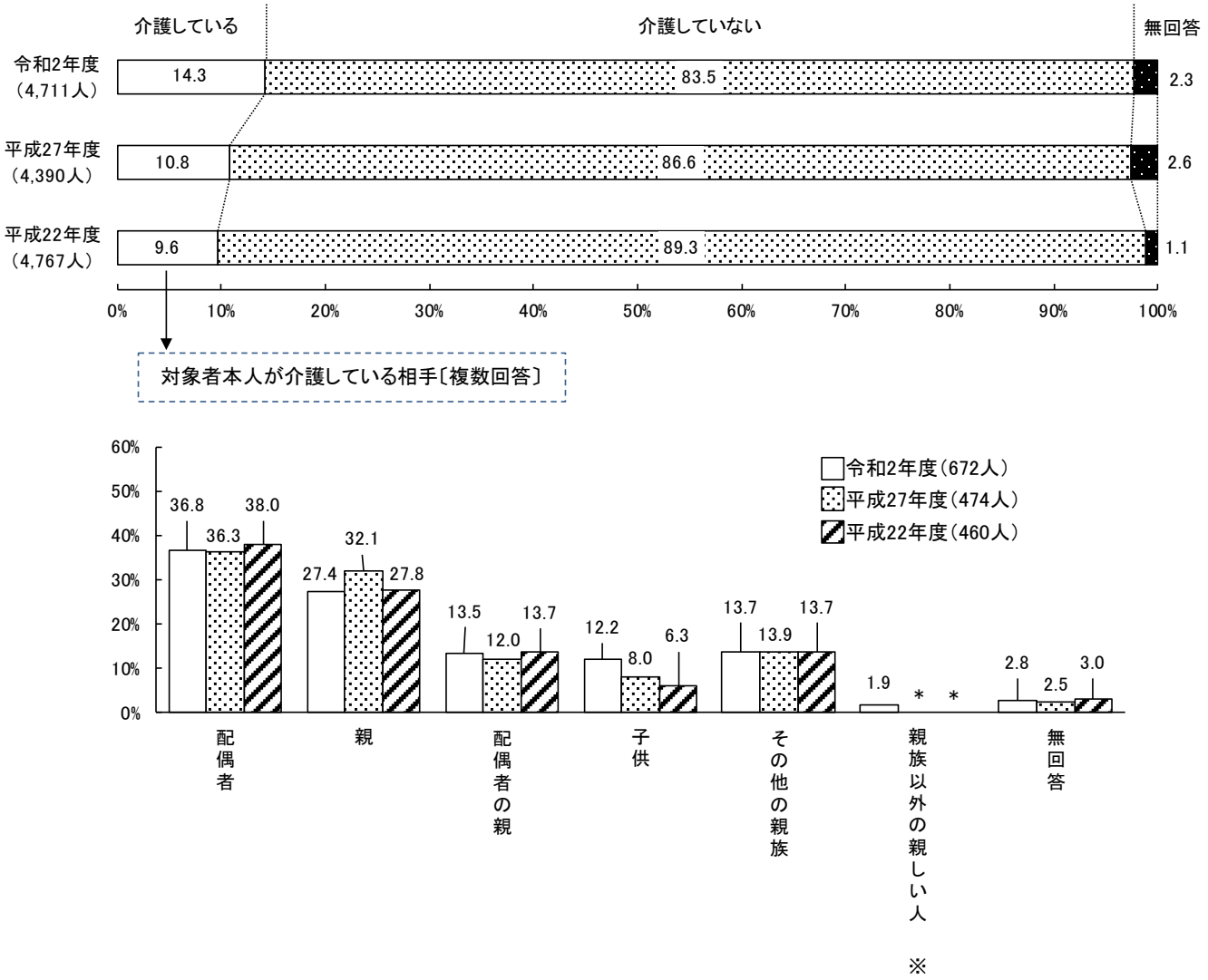
3　家族・親族等の介護・世話・見守りなどをしているか（その相手）〔複数回答〕

対象者本人が家族・親族等の介護（世話・見守りなどを含む。）をしているか聞いたところ、「介護している」人の割合が 14.3%、「介護していない」人が 83.5%となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「介護している」人の割合は 3.5 ポイント増加している。

また、介護している人（672 人）に介護している相手を聞いたところ、「配偶者」の割合が 36.8%で最も高く、次いで「親」が 27.4%となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「親」の割合は 4.7 ポイント減少している。



注）※は、平成 27 年度以前の調査では選択肢を設けていなかった。

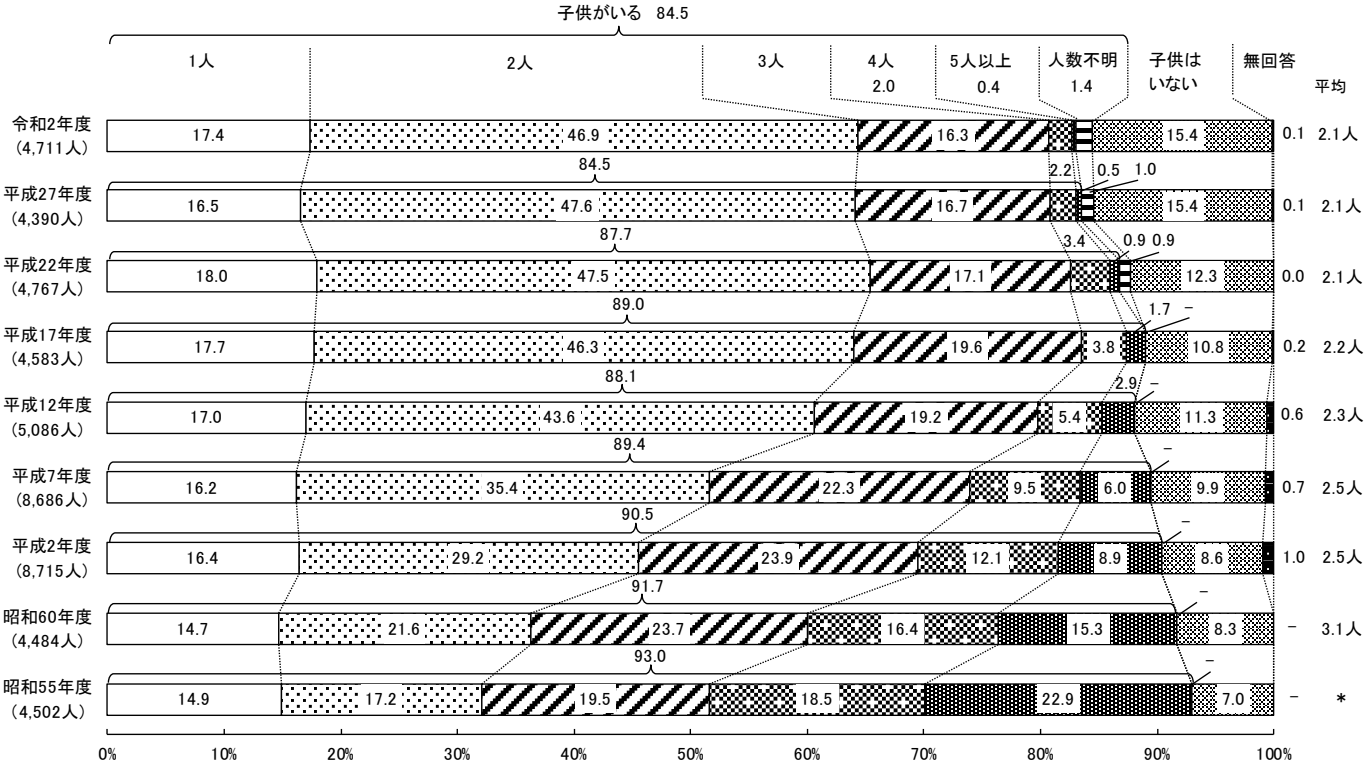
4　子供の状況

（1）子供の人数

子供の有無について聞いたところ、「子供がいる」人の割合が 84.5%、「子供はいない」人が 15.4%となっている。

昭和 55 年度調査と比べて、「子供がいる」人の割合は 8.5 ポイント減少している。

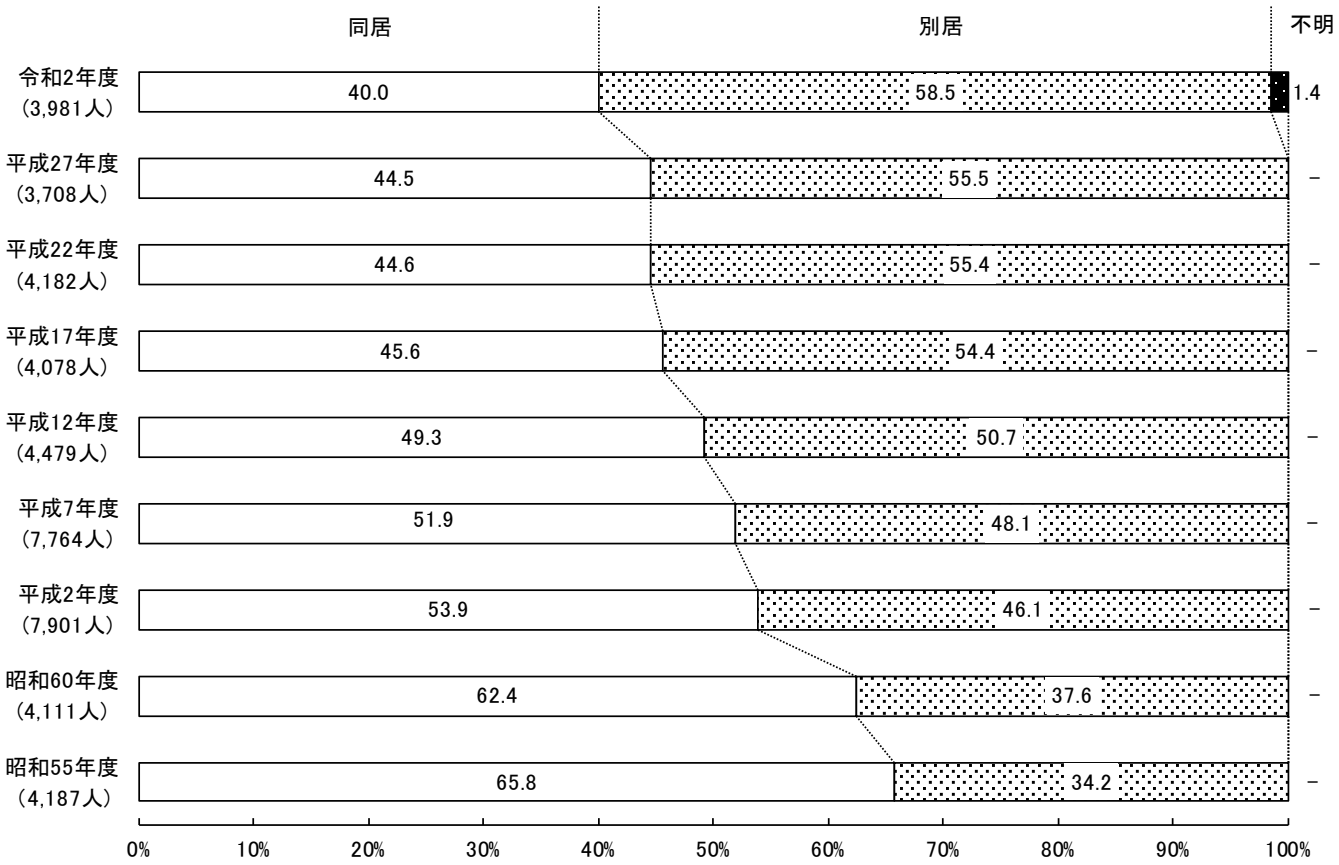
子供の人数についてみると、「２人」の割合が 46.9%で最も高くなっている。



（2）子供との同居の有無

子供がいる人(3,981 人)に、子供との同居の有無について聞いたところ、「同居」の割合が 40.0%、「別居」が 58.5%となっている。

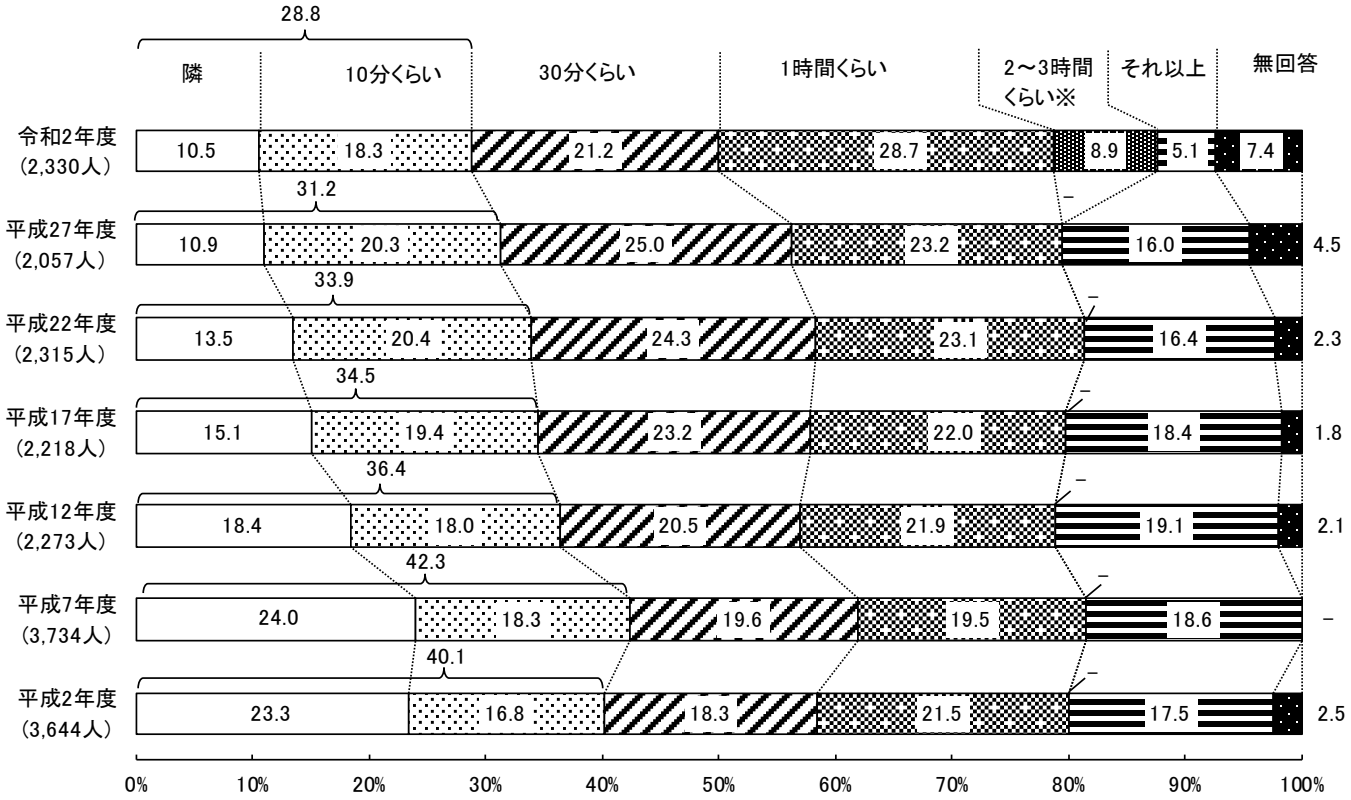
「同居」の割合は平成 27 年度調査と比べて 4.5 ポイント、昭和 55 年度調査と比べて 25.8 ポイント減少している。



（3）最も近くに住んでいる子供との距離

子供と別居している人(2,330 人)に子供との距離を聞いたところ、「隣」と「10 分くらい」を合わせた割合が 28.8%となっており、別居している人のうち約３割が子供のすぐ近くに住んでいる。

平成２年度調査と比べて、「隣」の割合は 12.8 ポイント減少している。



注１）子供が複数人いる場合は、一番近くに住んでいる子供との距離を聞いた。

２）通常行き来する方法（徒歩、バス、電車など）による時間を聞いた。

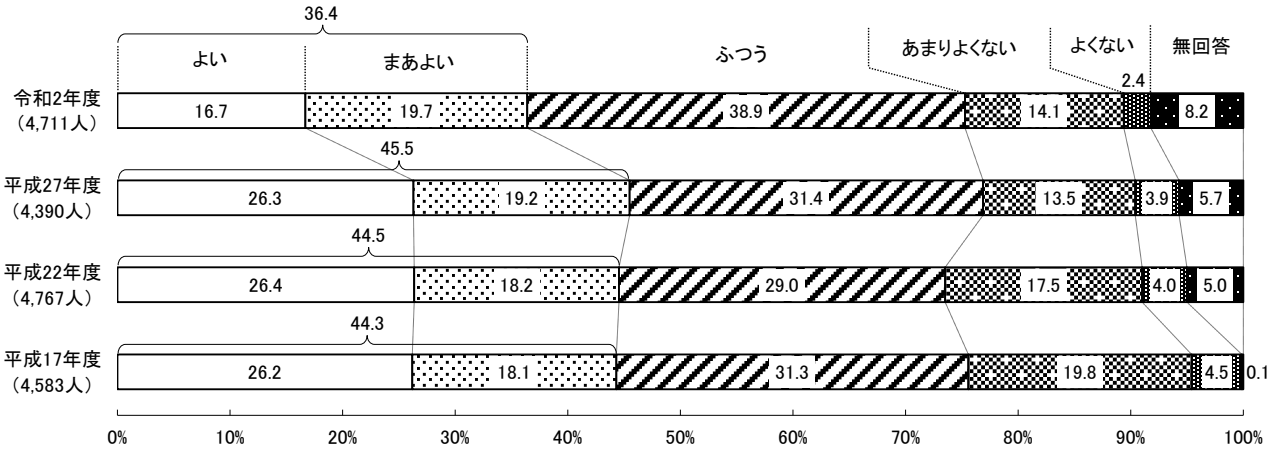
３）※は、平成 27 年度以前の調査では選択肢を設けておらず、「2～3 時間くらい」の回答は「それ以上」の中に含まれる。

5　健康状況

（1）健康意識

健康状態をどのように感じているか聞いたところ、「ふつう」の割合が 38.9%で最も高くなっている。「よい」（16.7%）と「まあよい」（19.7%）を合わせた割合は 36.4%となっている。

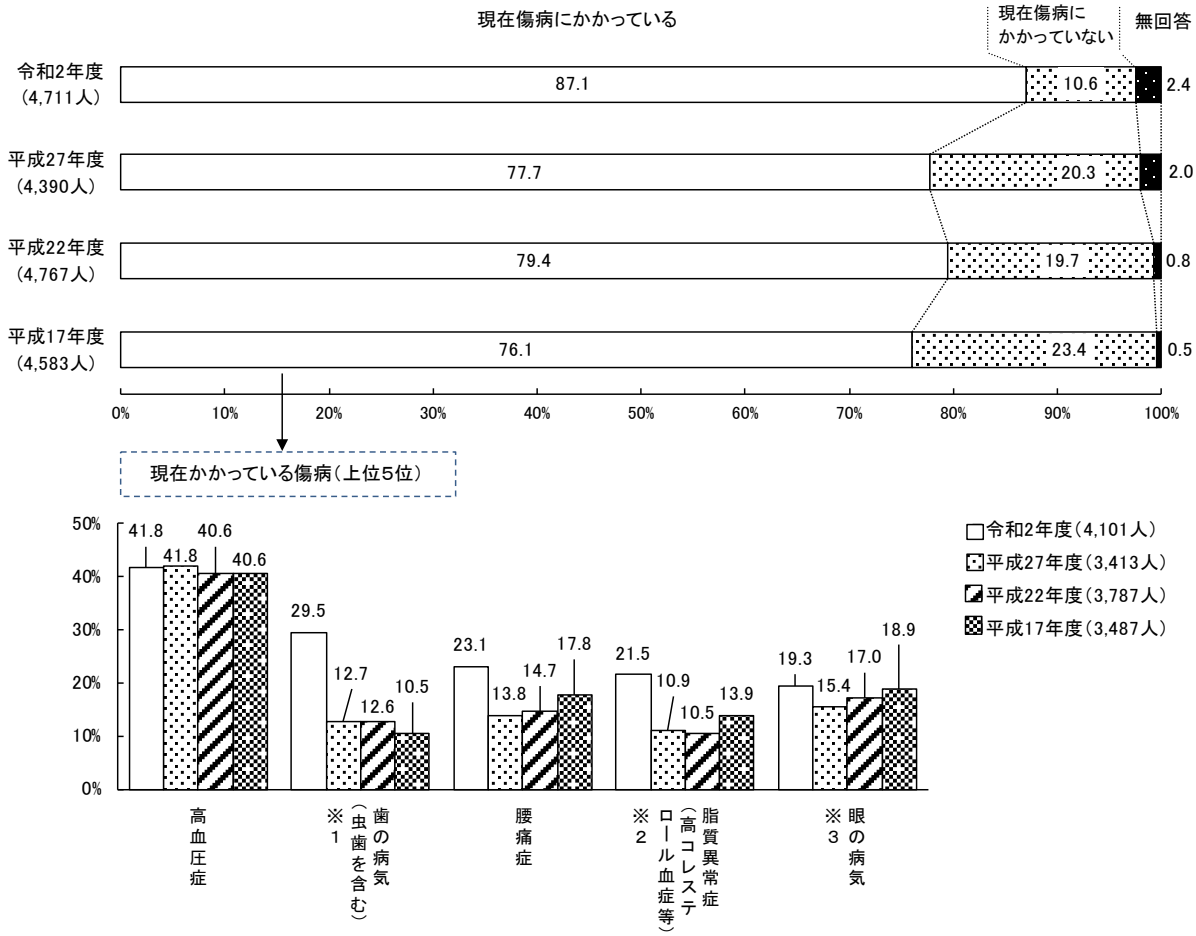
平成 27 年度調査と比べて、「よい」の割合は 9.6 ポイント減少している。



（2）現在かかっている傷病〔複数回答〕

現在、何らかの傷病にかかっているかを聞いたところ、「現在傷病にかかっている」人の割合が 87.1%で、平成 27 年度調査と比べて、9.4 ポイント増加している。

現在かかっている傷病のうち、「高血圧症」の割合が 41.8%で最も高くなっている。



注１）※１は、平成 17 年度調査では「歯科疾患」としていた。

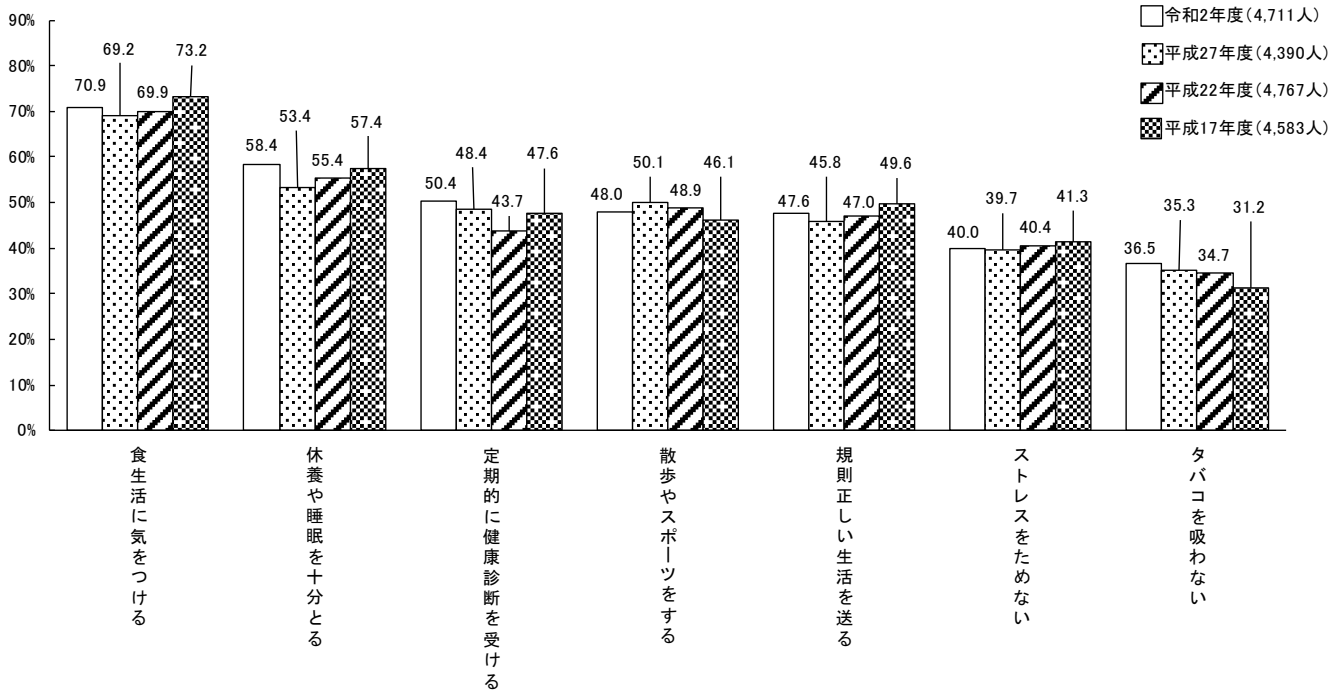
２）※２は、平成 17 年度調査では「高脂血症（高コレステロール血症など)」としていた。

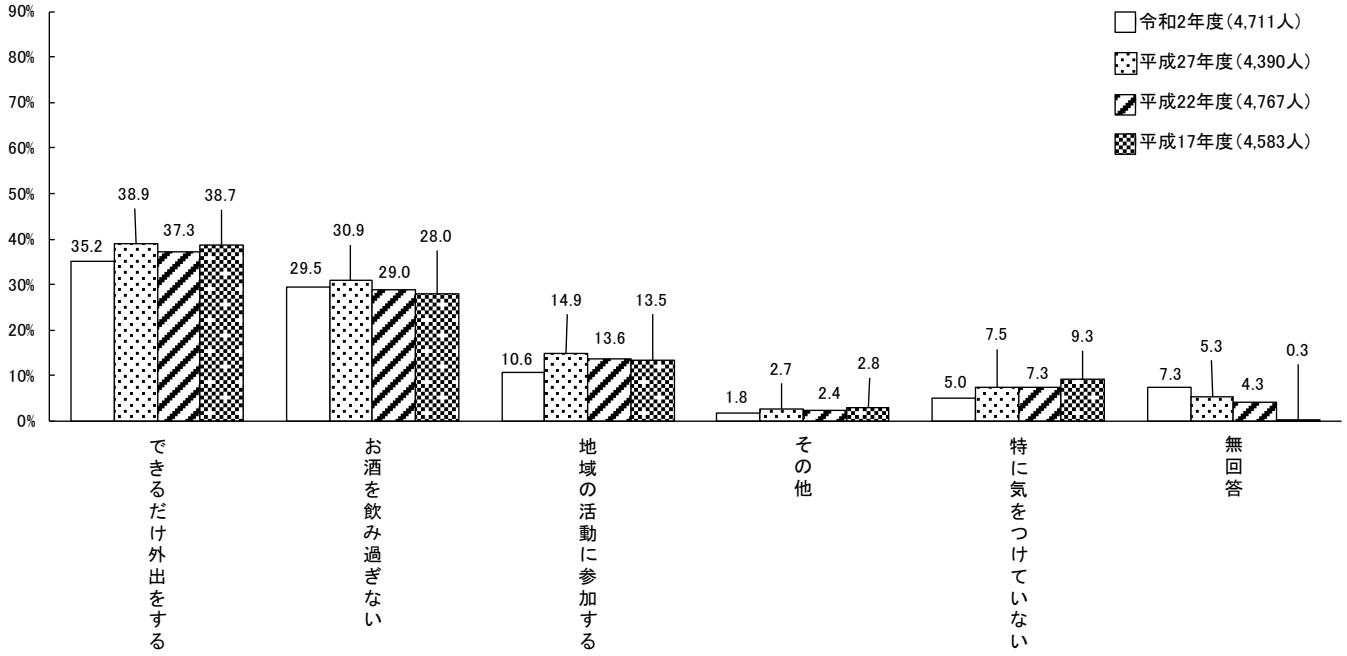
３）※３は、平成 17 年度調査では「眼疾患（白内障など)」としていた。

（3）健康のために気をつけていること〔複数回答〕

健康のために気をつけていることを聞いたところ、「食生活に気をつける」の割合が 70.9%で最も高く、次いで「休養や睡眠を十分とる」が 58.4%となっている。

平成 27 年度調査と比べると、「休養や睡眠を十分とる」の割合は 5.0 ポイント増加している。一方で、「地域の活動に参加する」の割合は 4.3 ポイント、「できるだけ外出をする」は 3.7 ポイント減少している。



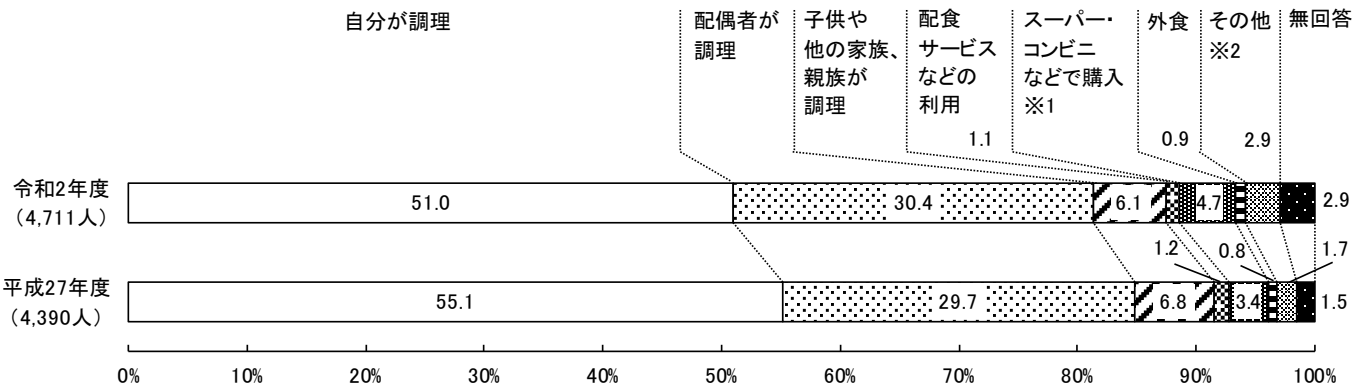


6　食事

（1）食事の状況

普段の食事の状況について聞いたところ、食事の用意は「自分が調理」の割合が 51.0％で最も高く、次いで「配偶者が調理」が 30.4％となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「自分が調理」の割合は 4.1 ポイント減少している。

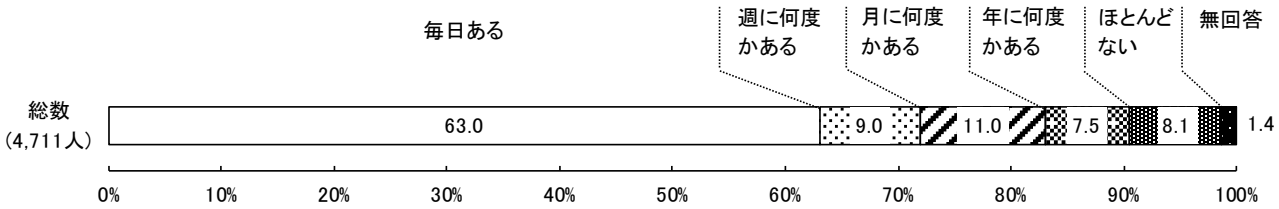


注１）※１は、平成 27 年度調査では「スーパー・コンビニなどで惣菜、インスタント食品などを購入」としていた。

２）※２は、平成 27 年度調査では「その他（ヘルパーが調理・デイサービスを利用・出前など）」としていた。

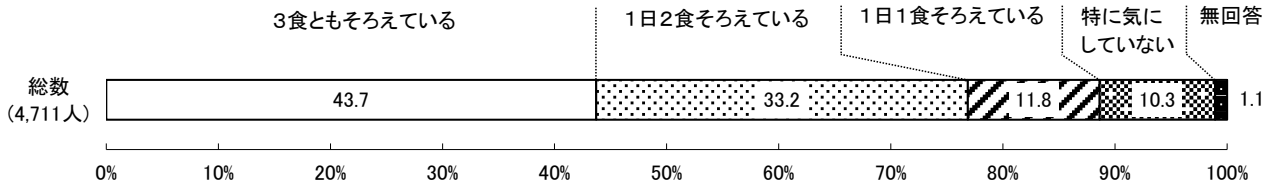
（2）誰かと共に食事をとる頻度

誰かと一緒に食事をする機会がどれくらいあるか聞いたところ、「毎日ある」の割合が 63.0％で最も高くなっている。また、「ほとんどない」の割合が 8.1％となっている。



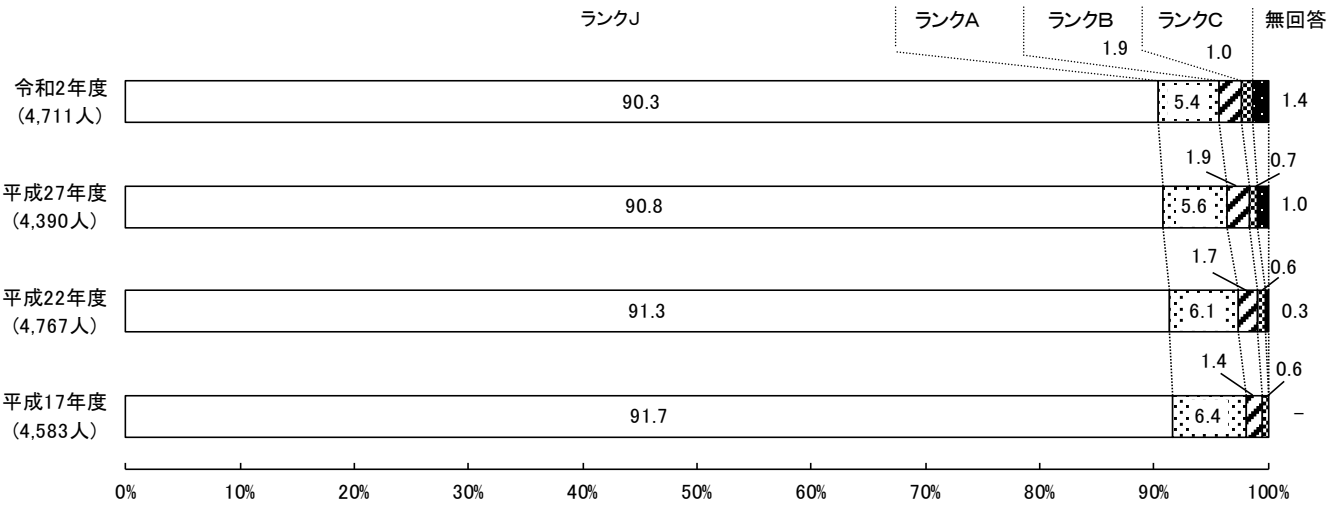
（3）食事のバランス

普段の食事で主食、主菜、副菜をそろえた食事をしているか聞いたところ、「３食ともそろえている」の割合が 43.7％で最も高く、次いで「１日２食そろえている」が 33.2％となっている。



7　ＡＤＬ（日常生活動作）の状況

ＡＤＬ（日常生活動作）の状況をみると、「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」自立した人の割合が 90.3％で最も高くなっている。



ランクＪ	生活自立	①　日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる １　公共交通機関を利用してひとりで外出できる ２　隣近所へならひとりで外出できる
ランクＡ	準寝たきり	②　屋内での生活はほぼ自分でできるが、外出するには介助が必要である １　介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する ２　外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
ランクＢ	寝たきり	③　屋内での生活は部分的に介助が必要であり、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる １　自分で車椅子などに座り、食事・排せつは介助が必要であるが、ベッドから離れて行うことができる ２　介助により車椅子などに座り、食事・排せつは介助が必要である
ランクＣ		④　食事、着替え、排せつの全てで全面的な介助が必要であり、１日中ベッドの上で過ごす １　自力で寝返りをうてる ２　自力で寝返りをうてない

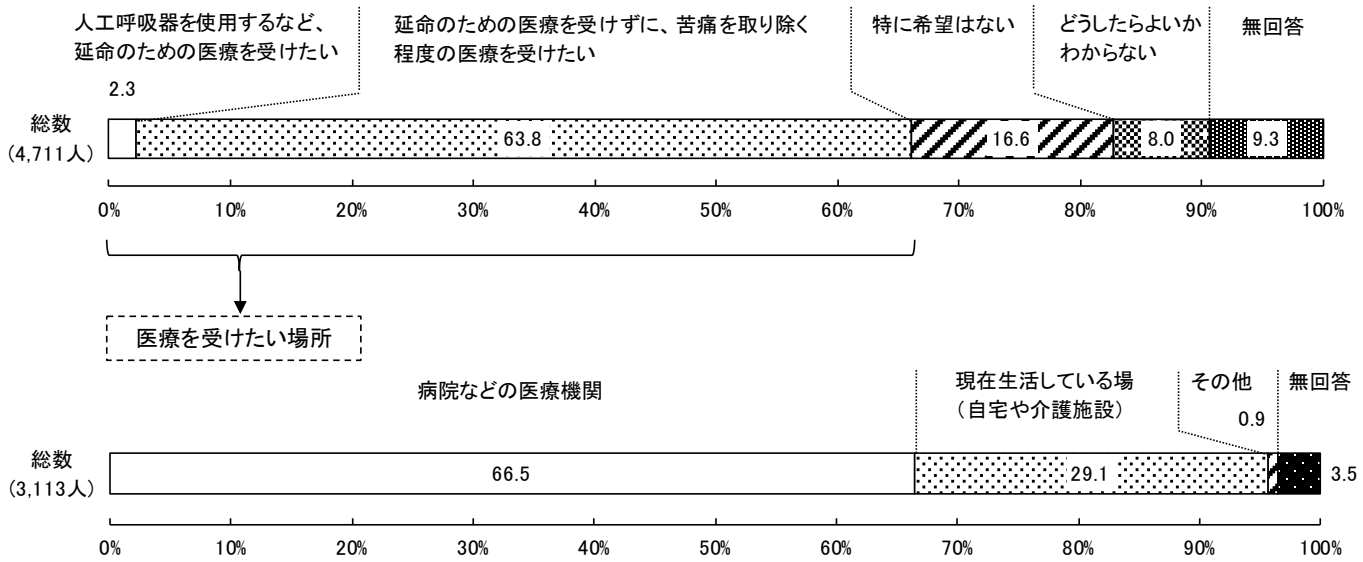
注）ランクの区分は「障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」（厚生労働省）による。

8　終末期に受けたい医療

（1）終末期に受けたい医療の内容、医療を受けたい場所

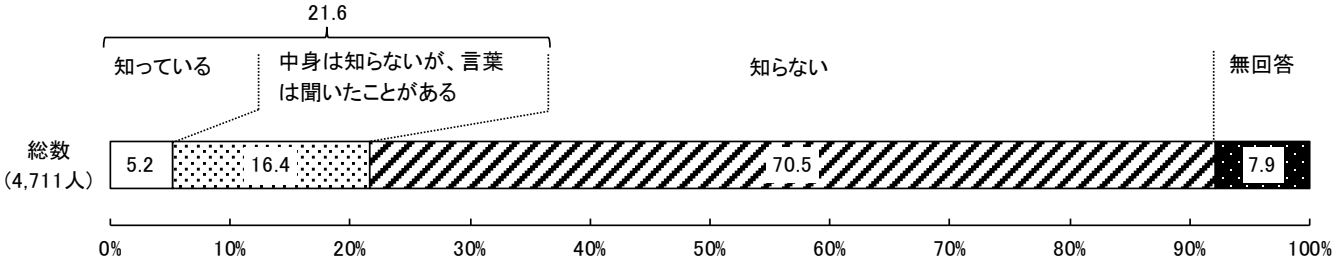
末期のがんや重い病気により、体調が回復しないで自分の死が近いと感じたとき、どのような医療を受けたいか聞いたところ、「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が 63.8％で最も高く、次いで「特に希望はない」が 16.6％となっている。

また、「延命のための医療を受けたい」又は「苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」と回答した人（3,113 人）に医療を受けたい場所を聞いたところ、「病院などの医療機関」の割合が 66.5％で最も高くなっている。



（2）アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度

「アドバンス・ケア・プランニング（ＡＣＰ）」又は「人生会議」という言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」と「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」を合わせた割合が 21.6％となっている。一方、「知らない」の割合は 70.5％となっている。



※ アドバンス・ケア・プランニング（ＡＣＰ）とは

自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い共有する取組をいう。

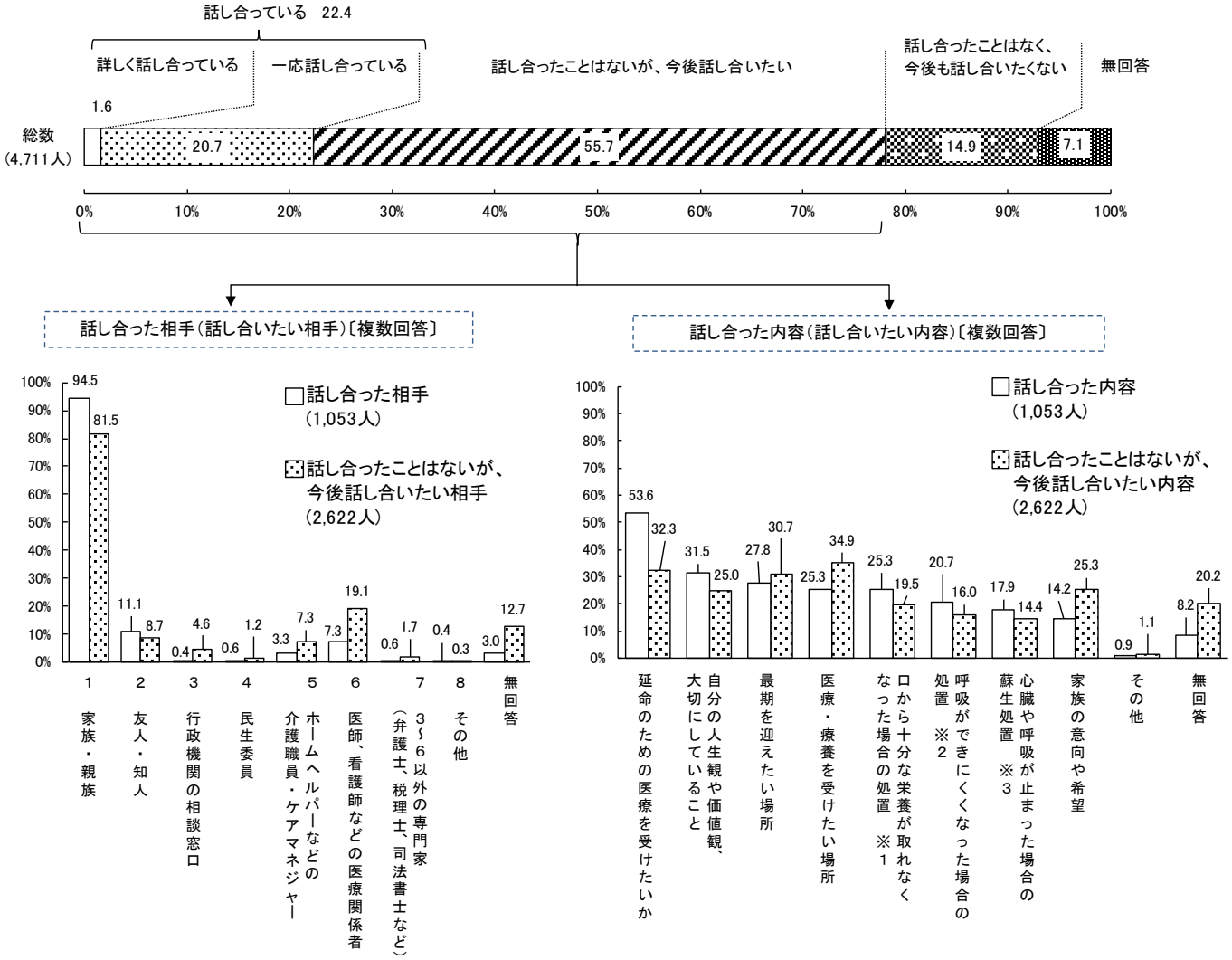
「人生会議」の愛称で呼ばれることもある。

（3）終末期に受けたい医療について話し合ったことがあるか

自身の人生の最終段階で受けたい医療について、家族や医療関係者等と話し合っているか聞いたところ、「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」を合わせた「話し合っている」人の割合が 22.4％となっている。また、「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」の割合は 55.7％となっている。

「話し合っている」と回答した人（1,053 人）に話し合った相手と話し合った内容を聞いたところ、話し合った相手では「家族・親族」の割合が 94.5％で最も高く、話し合った内容では「延命のための医療を受けたいか」が 53.6％で最も高くなっている。

また、「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」と回答した人（2,622 人）に今後話し合いたい相手と話し合いたい内容を聞いたところ、今後話し合いたい相手では、「話し合っている」と回答した人と同様に「家族・親族」の割合が 81.5％で最も高くなっている。今後話し合いたい内容では、「話し合っている」と回答した人とは異なり、「医療・療養を受けたい場所」が 34.9％で最も高くなっている。



注１）※１の「口から十分な栄養が取れなくなった場合の処置」とは、点滴、経鼻栄養、胃ろうなどを指す。

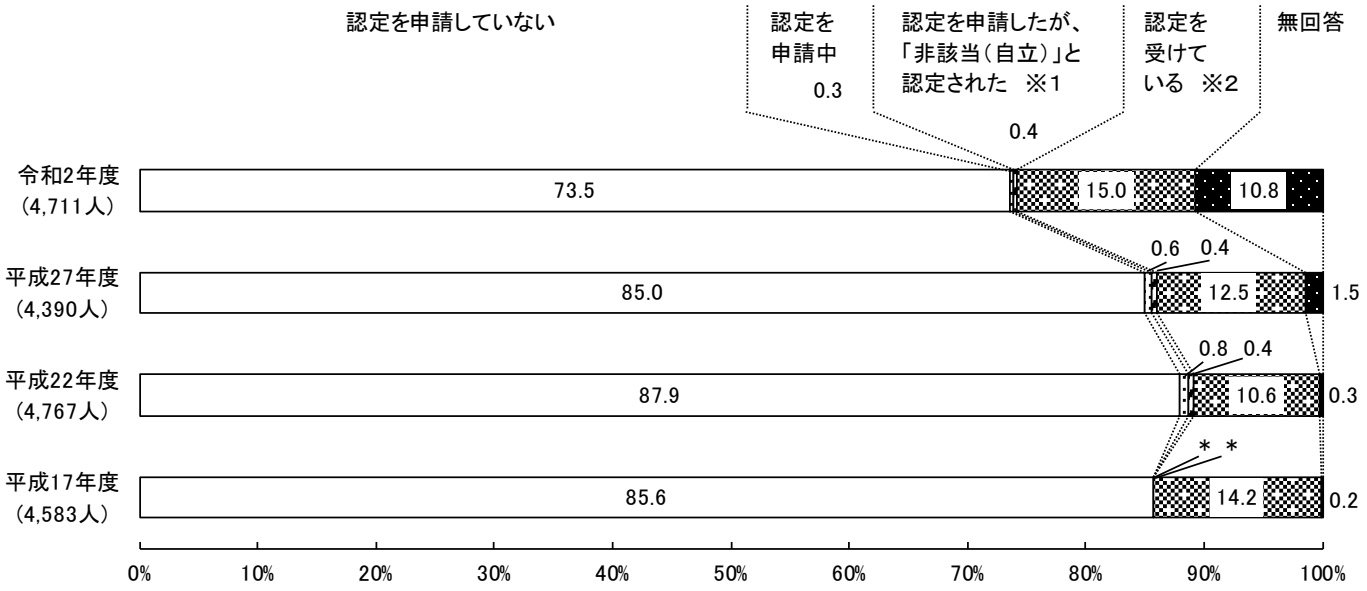
２）※２の「呼吸ができにくくなった場合の処置」とは、気管に管を入れて人工呼吸器につなげるなどを指す。

３）※３の「心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置」とは、心臓マッサージ、電気ショック、人工呼吸などを指す。

9　介護サービス・介護予防など

（1）要介護認定（要支援認定を含む。）の有無

介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。以下同じ。）を受けているか聞いたところ、「認定を申請していない」人の割合が 73.5%、「認定を受けている」人が 15.0%となっている。

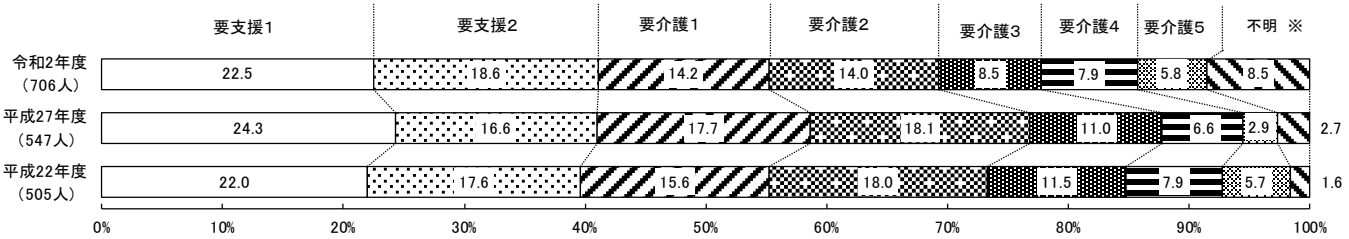


注１）※１は、平成 17 年度調査では選択肢を設けていなかった。

２）※２は、平成 17 年度調査では「認定を申請中」を含む。

（2）要支援・要介護度

「要介護認定を受けている」と回答した人（706 人）に要支援・要介護度を聞いたところ、「要支援１」の割合が 22.5%で最も高く、次いで「要介護２」が 18.6%となっている。



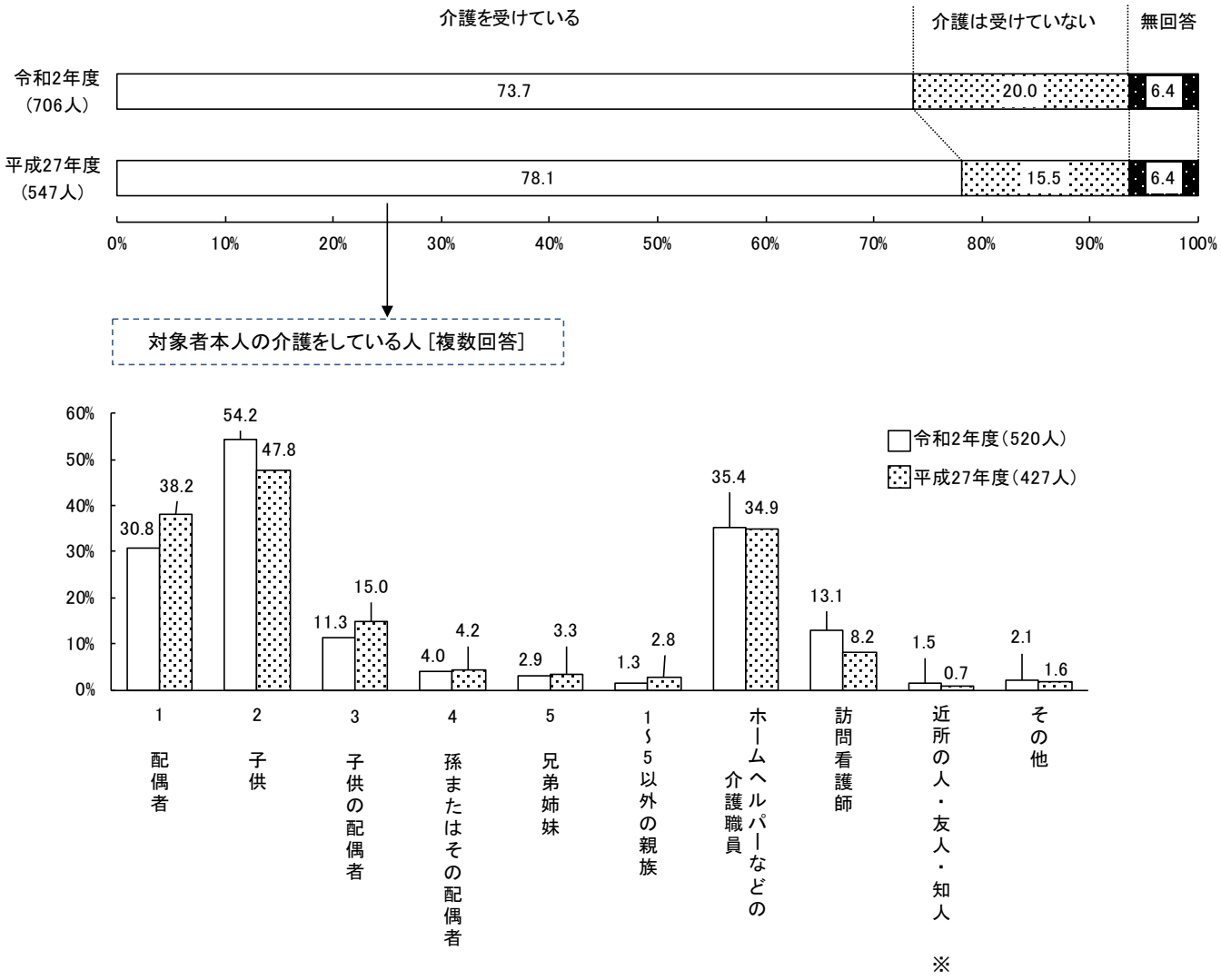
注）※は、平成 22 年度及び平成 27 年度調査では、要支援・要介護度の質問に対する「無回答」の割合、令和２年度調査では「要支援・要介護度はわからない」の割合である。

（3）対象者本人の介護をしている人〔複数回答〕

「要介護認定を受けている」と回答した人（706 人）に介護を受けているか聞いたところ、「介護を受けている」人の割合が 73.7%、「介護は受けていない」人が 20.0%となっている。

「介護を受けている」と回答した人（520 人）に介護をしている人は誰か聞いたところ、「子供」の割合が 54.2%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」が 35.4%、「配偶者」が 30.8%となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「子供」の割合は 6.4 ポイント、「訪問看護師」は 4.9 ポイント増加している一方、「配偶者」は 7.4 ポイント減少している。

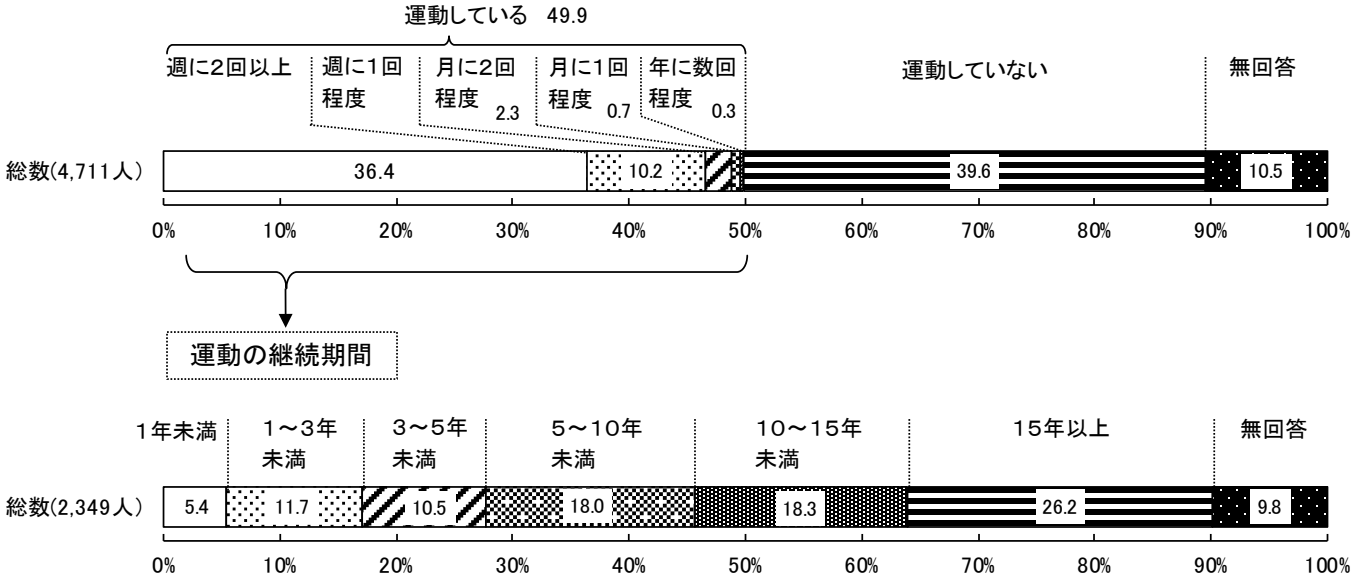


注）※は、平成 27 年度調査では「近所の人」としていた。

（4）運動の状況

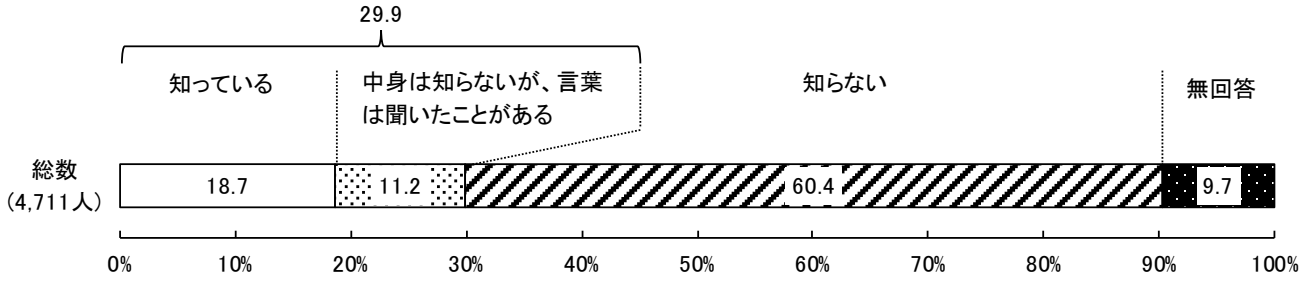
介護予防や健康づくりのために運動しているか聞いたところ､｢運動している｣人の割合が 49.9%、「運動していない」人が 39.6%となっている。「運動している」人の中では、「週２回以上」運動している人の割合は、回答者全体のうち 36.4%で最も高くなっている。

「運動している人」と回答した人（2,349 人）に、運動の継続期間を聞いたところ、「15 年以上」の割合が 26.2%で最も高くなっている。一方、「１年未満」の割合が 5.4%となっている。



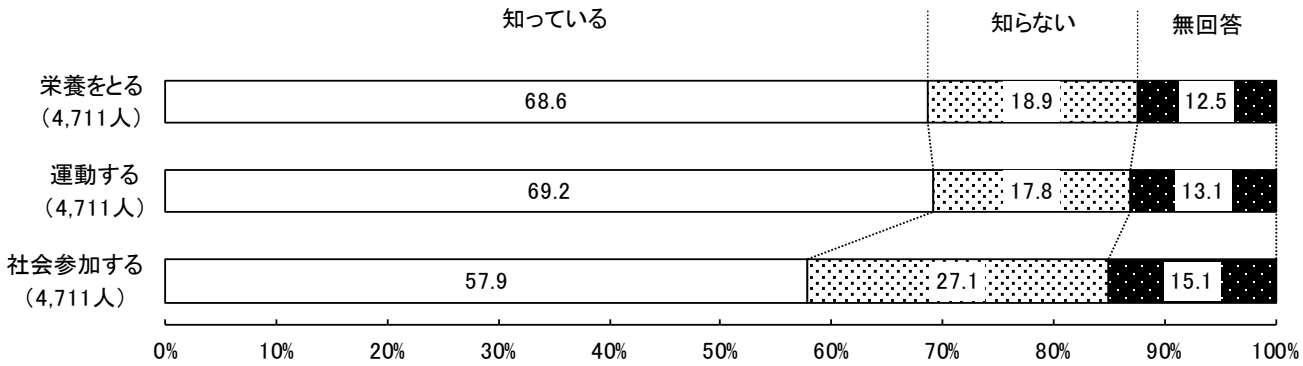
（5）フレイルの認知度

「フレイル」という言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」と「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」を合わせた割合が 29.9%となっている。一方、「知らない」の割合は 60.4%となっている。



（6）フレイルの予防方法の認知度

フレイルの意味を以下のとおり記載した上で、「栄養をとる」、「運動する」及び「社会参加する」ことがフレイルの予防方法であることを知っているか聞いたところ、「知っている」人の割合は、「栄養をとる」が 68.6%、「運動する」が 69.2%、「社会参加する」が 57.9%となっている。



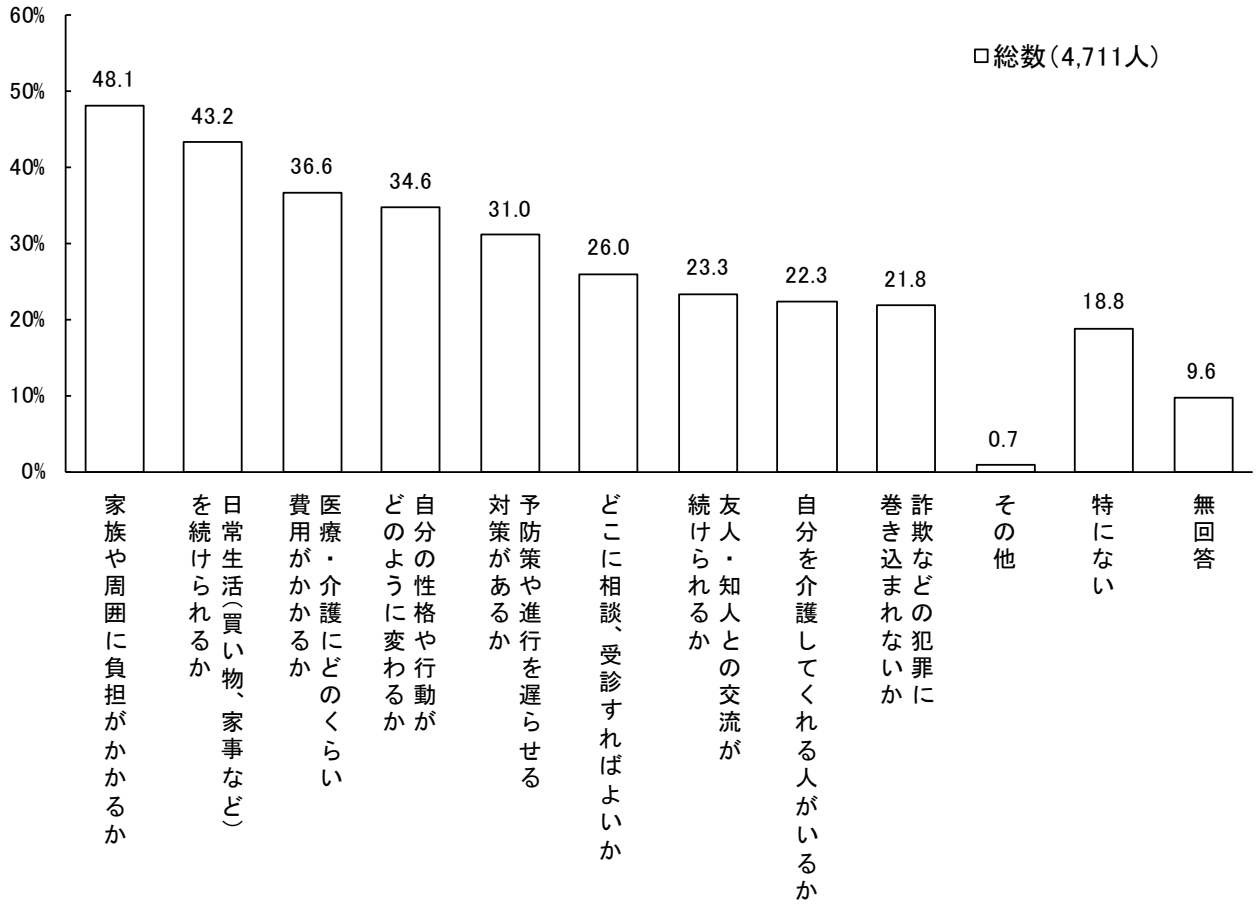
※ フレイルとは

年齢とともに心身の活力（筋力や認知機能など）が低下して、要介護状態となるリスクが高い状態で、「健康」と「要介護」の中間をいう。

多くの高齢者が、フレイルの段階を経て徐々に要介護状態に至るとされている。

10　認知症について不安に感じていること〔複数回答〕

認知症について気になっていること、不安に感じていることを聞いたところ、「家族や周囲に負担がかかるか」の割合が 48.1%で最も高く、次いで「日常生活（買い物、家事など）を続けられるか」が 43.2%となっている。一方で、「特にない」は 18.8%となっている。



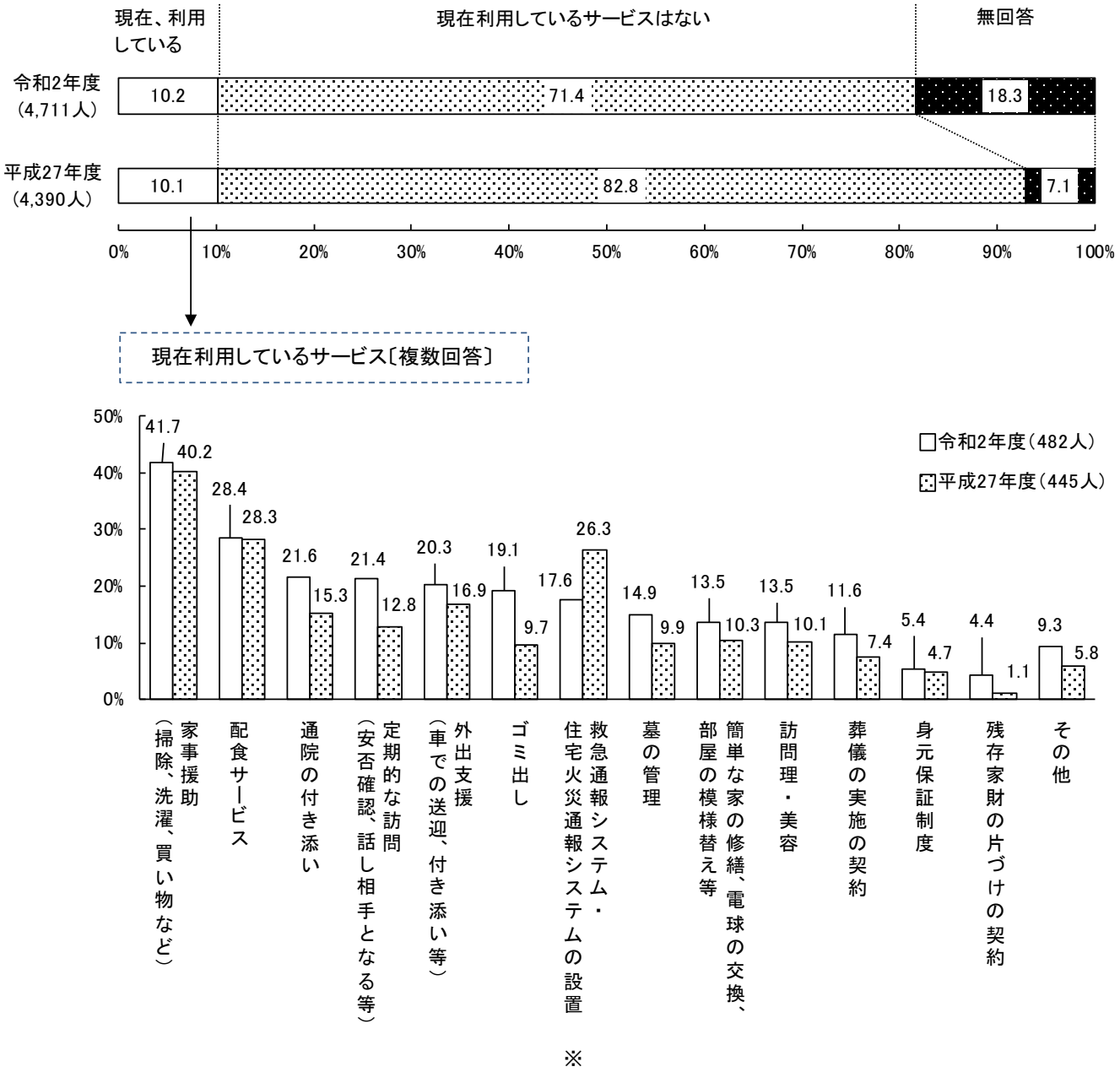
11　日常生活支援サービス

（1）日常生活支援サービスの利用状況〔複数回答〕

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない）の利用状況について聞いたところ、「現在利用しているサービスはない」の割合が 71.4%で、「利用している」人は 10.2%となっている。

「利用している」と回答した人(482 人)に利用しているサービスについて聞いたところ、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など)」の割合が 41.7%で最も高く、次いで「配食サービス」が 28.4%となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「ゴミ出し」の割合は 9.4 ポイント、「定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等)」は 8.6 ポイント増加している。一方で、「救急通報システム・住宅火災通報システムの設置」の割合は 8.7 ポイント減少している。



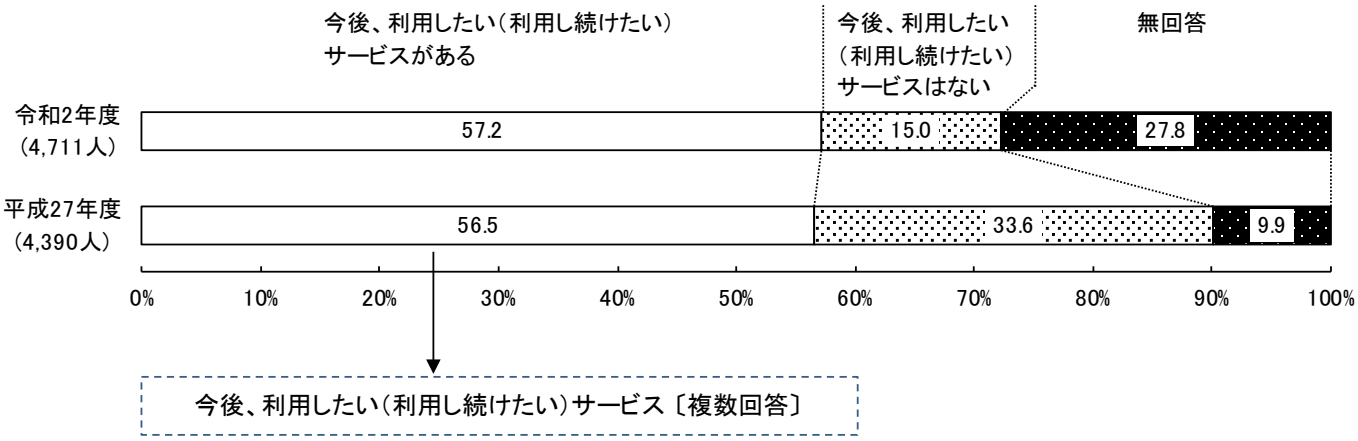
注）※は、平成 27 年度調査では「緊急通報システム・火災安全システムの設置」としていた。

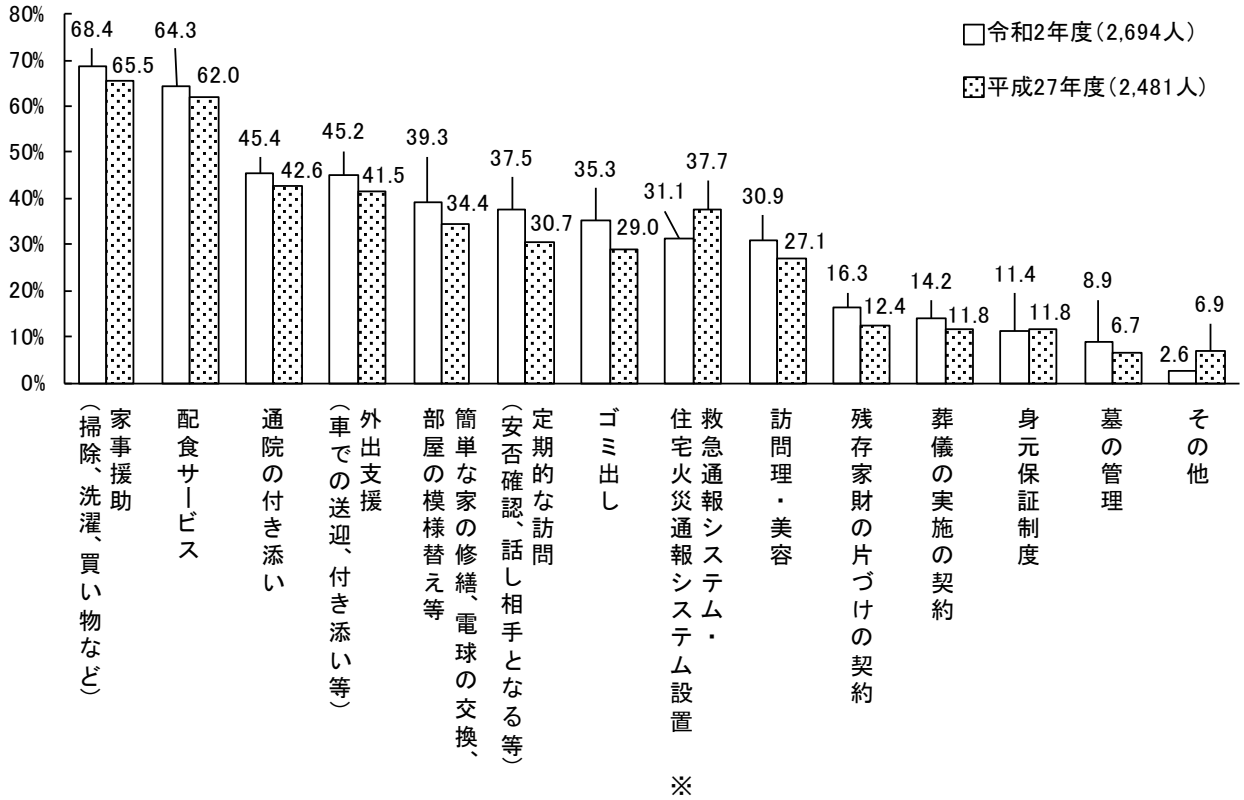
（2）日常生活支援サービスの利用意向〔複数回答〕

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない）の今後の利用意向について聞いたところ、「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスがある」の割合が 57.2％で、「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスはない」が 15.0％となっている。

「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスがある」と回答した人（2,694 人）に利用したいサービスについて聞いたところ、「家事援助（掃除・洗濯・買い物など）」の割合が 68.4％で最も高く、次いで「配食サービス」が 64.3％となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等）」の割合は 6.8 ポイント、「ゴミ出し」は 6.3 ポイント増加している一方、「救急通報システム・住宅火災通報システム設置」は 6.6 ポイント減少している。





注）※は、平成 27 年度調査では「緊急通報システム・火災安全システムの設置」としていた。

12　住まいの種類

現在、住んでいる住宅の種類を聞いたところ、「持家（一戸建て）」の割合が 59.2%で最も高く、次いで「持家（分譲マンションなど）」が 19.3%、「民間賃貸住宅」が 11.4%となっている。

持家・借家別にみると、「持家」の割合が 78.6%、「借家・賃貸住宅など」が 17.7%となっている。

	総数	持家	持家（一戸建て）	持家（分譲マンションなど）	借家・賃貸住宅など	民間賃貸住宅	都市・区市町村の公営賃貸住宅	都市再生機構・住宅供給公社などの公的賃貸住宅 ※1	借家（一戸建て）	高齢者向け住宅 ※2	その他	無回答
令和2年度	100.0 (4,711)	78.6	59.2	19.3	17.7	11.4	1.8	1.7	1.2	1.7	1.5	2.2
平成27年度	100.0 (4,390)	76.4	60.1	16.3	22.6	12.8	5.6	2.4	1.1	0.7	0.6	0.4
平成22年度	100.0 (4,767)	78.4	61.1	17.3	21.1	8.6	5.2	5.5	1.3	0.5	0.3	0.2
平成17年度	100.0 (4,583)	79.5	69.4	10.1	19.7	9.0	7.9	1.2	1.2	0.5	0.6	0.2

注１）※１は、平成 17 年度調査では「都市機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅」、平成 22 年度及び平成 27 年度調査では「都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅」としていた。

２）※２の「高齢者向け住宅」とは、シルバーピア、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなどを指す。

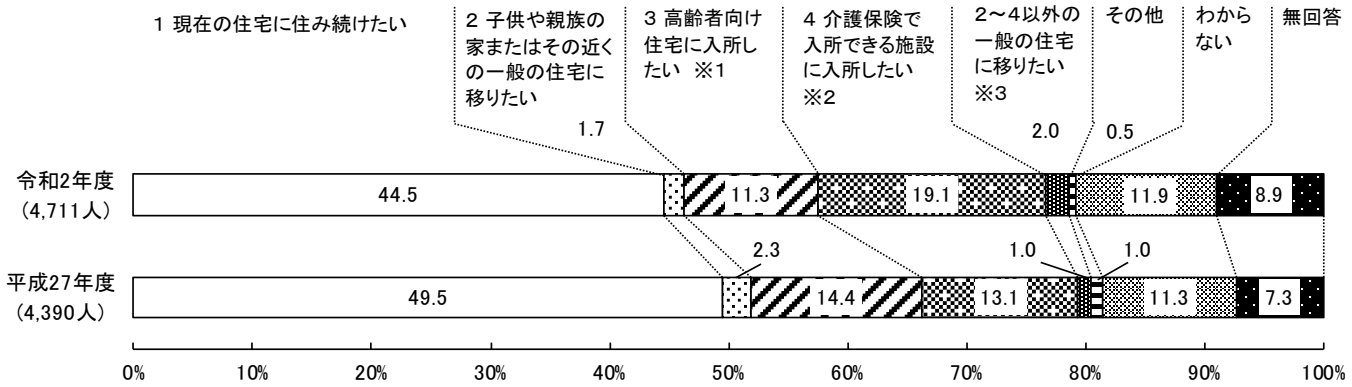
３）※２は、平成 17 年度調査では「高齢者向け住宅（シルバーピア、高齢者向け優良賃貸住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなど）」、平成 22 年度調査では「高齢者向け住宅等（シルバーピア、高齢者専用賃貸住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなど）」としていた。

13　高齢期の住まい

（1）介護が必要になったときの高齢期の住まい

介護が必要になったときに住みたい場所について聞いたところ、「現在の住宅に住み続けたい」の割合が 44.5％で最も高く、次いで「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が 19.1％となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「介護保険で入所できる施設に入所したい」割合は 6.0 ポイント増加している一方、「現在の住宅に住み続けたい」割合は 5.0 ポイント減少している。



注１）※１の「高齢者向け住宅」とは、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームなどを指す。

２）※１は、平成 27 年度調査では「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」と「有料老人ホームに入居したい」の２つの選択肢に分けており、２つの選択肢の合計である。

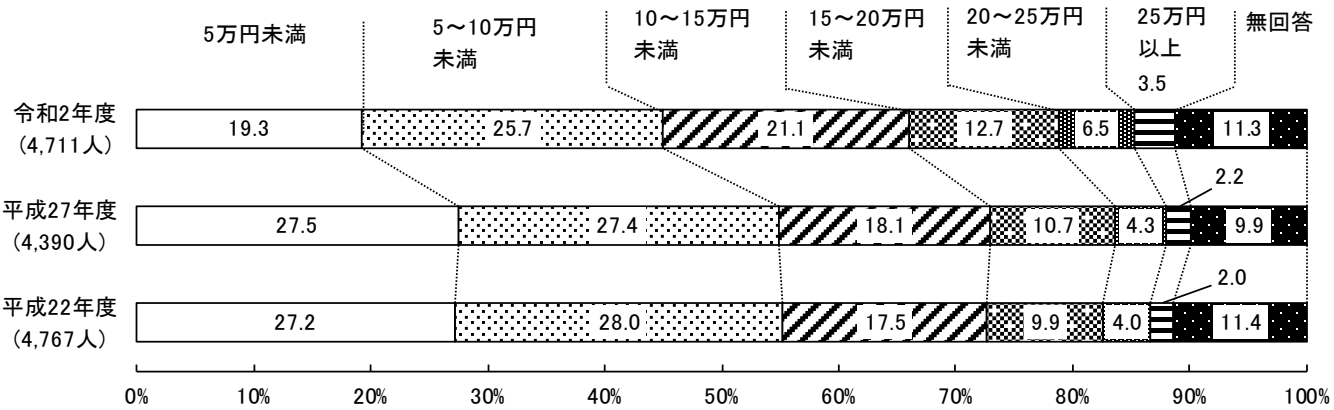
３）※２の「介護保険で入所できる施設」とは、特別養護老人ホームなどを指す。

４）※３の「２～４以外の一般の住宅」とは、自然環境のよいところ、生まれ育ったところなどを指す。

（2）介護など支援が必要になったときに自宅以外の住まいに支出できる費用

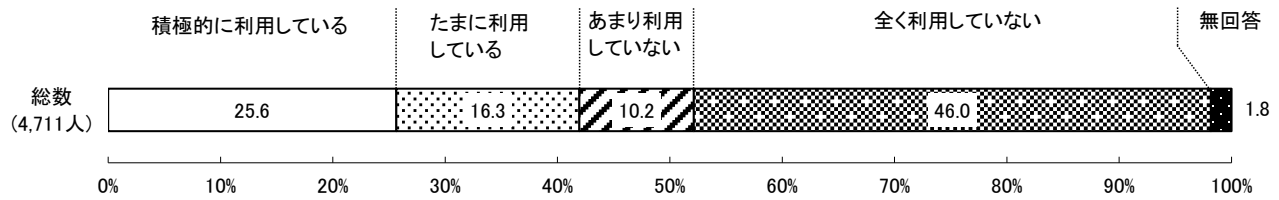
将来、介護などの支援が必要となって、もし自宅以外に住むことになった場合、月々どの程度支出できるか聞いたところ、「５～10 万円未満」の割合が 25.7％となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「５万円未満」の割合は、8.2 ポイント減少している。



14　インターネットや情報通信機器の利用状況

インターネットやスマートフォンなどの情報端末を、買い物、仕事、学習など、普段の生活で利用しているか聞いたところ、「積極的に利用している」の割合が 25.6%、「全く利用していない」が 46.0%となっている。

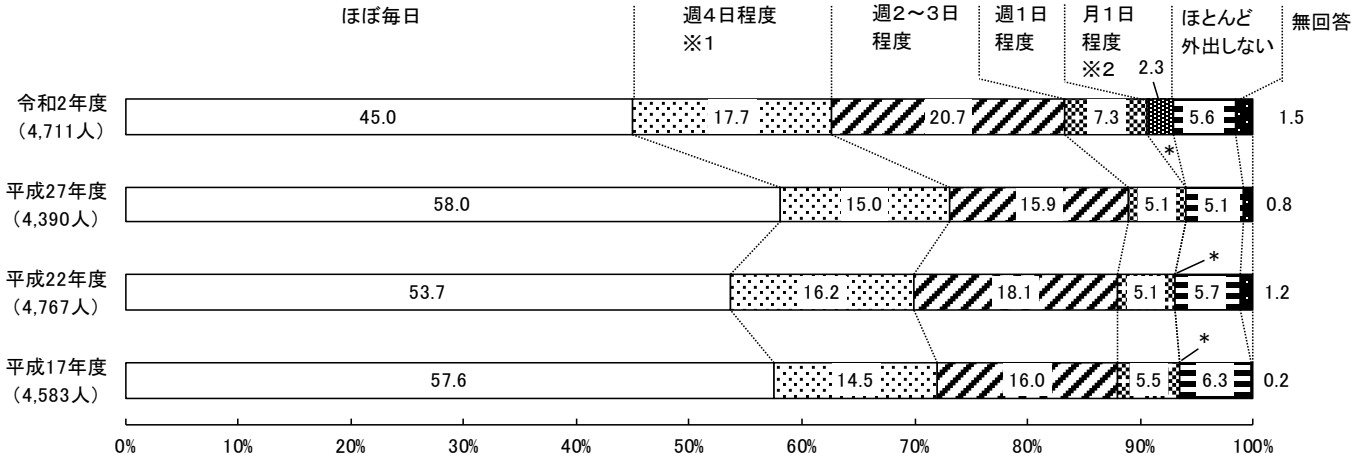


15　コミュニケーション

（1）外出の頻度

通常どれくらいの頻度で外出するかを聞いたところ、「ほぼ毎日」の割合が 45.0%で最も高く、次いで「週２～３日程度」が 20.7%、「週４日程度」が 17.7%となっている。

平成 27 年度調査と比べると、「ほぼ毎日」の割合は 13.0 ポイント減少している。



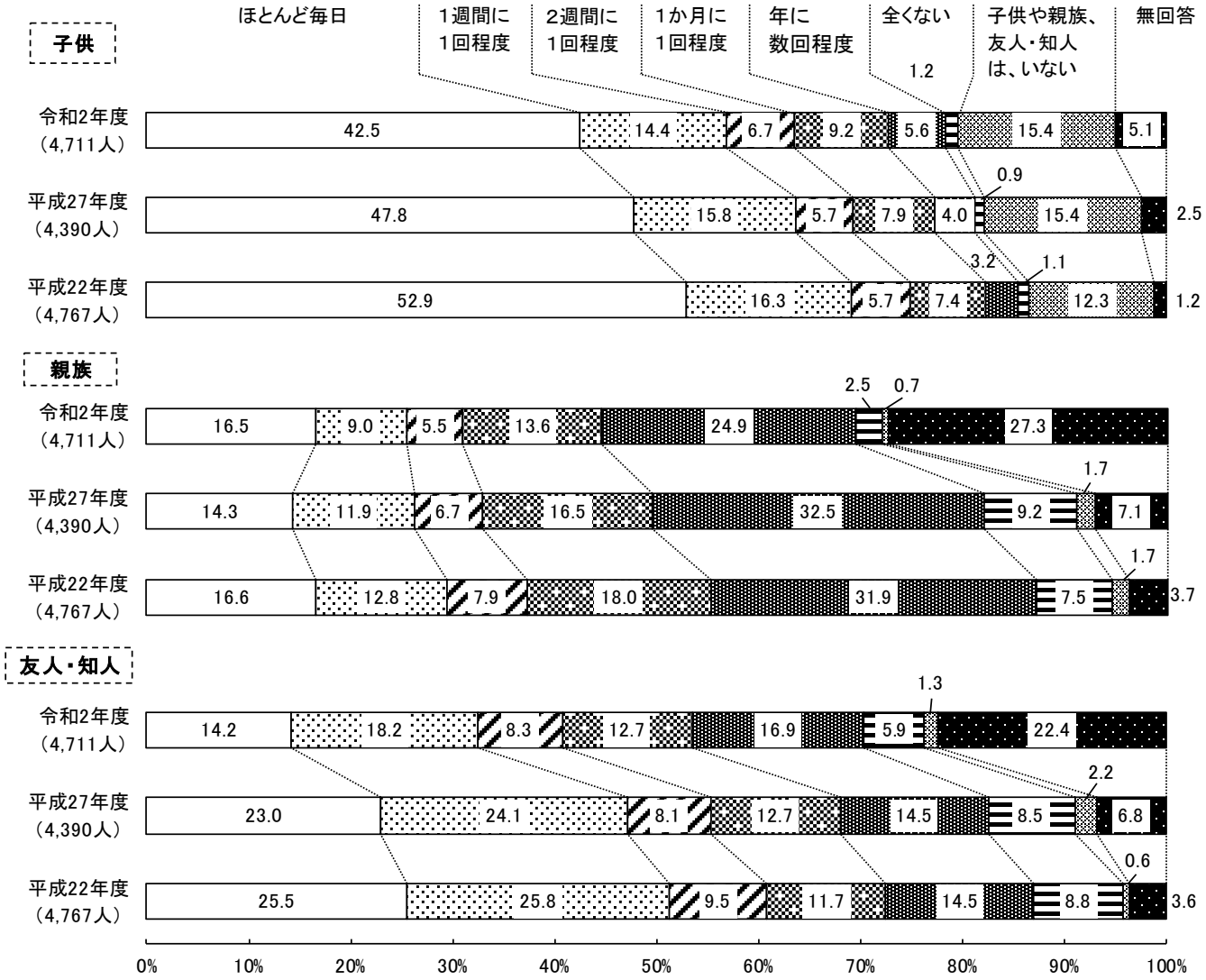
注１）平成 27 年度以前の「週～日」の選択肢は、いずれも「週～回」と回数表記であり、１日に２回以上外出する場合は、１回と数えた。

２）※１は、平成 17 年度調査では「週４回以上」としていた。

３）※２は、平成 27 年度以前は選択肢を設けていなかった。

（2）交流の頻度

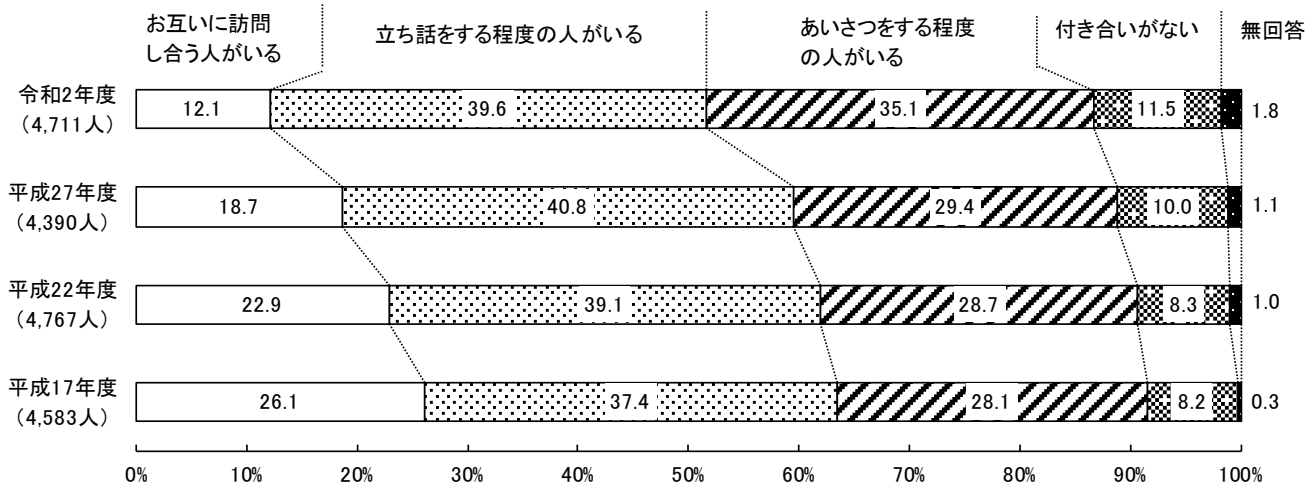
どれくらいの頻度で、子供、親族、友人と交流するかを聞いたところ、子供については「ほとんど毎日」の割合が 42.5%、親族については「年に数回程度」が 24.9%、「友人・知人」については「１週間に１回程度」が 18.2%とそれぞれ最も高くなっている。



（3）近所付き合いの程度

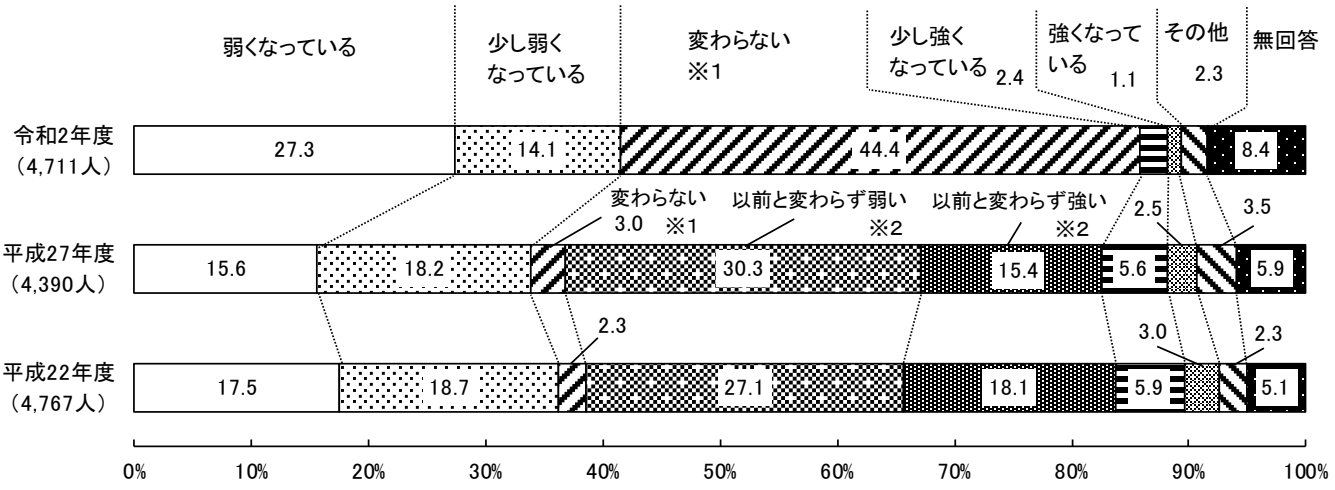
近所付き合いの程度を聞いたところ、「立ち話をする程度の人がいる」の割合が 39.6％で最も高く、次いで「あいさつをする程度の人がいる」が 35.1％となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「お互いに訪問し合う人がいる」の割合は 6.6 ポイント減少している一方、「あいさつをする程度の人がいる」は 5.7 ポイント増加している。



（4）地域とのつながり

地域とのつながり（近所付き合い、交流など）について以前と比べてどのように感じているか聞いたところ、「変わらない」の割合が 44.4％で最も高くなっている。



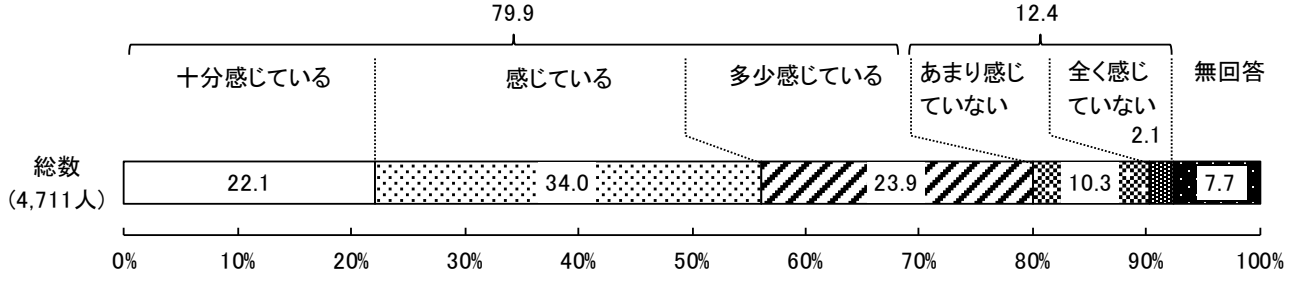
注１）※１は、平成 22 年度及び平成 27 年度調査では選択肢を設けておらず、「その他」の回答の中で「変わらない」と回答した数値である。

２）※２は、令和２年度調査では選択肢を設けていない。

16　生きがい

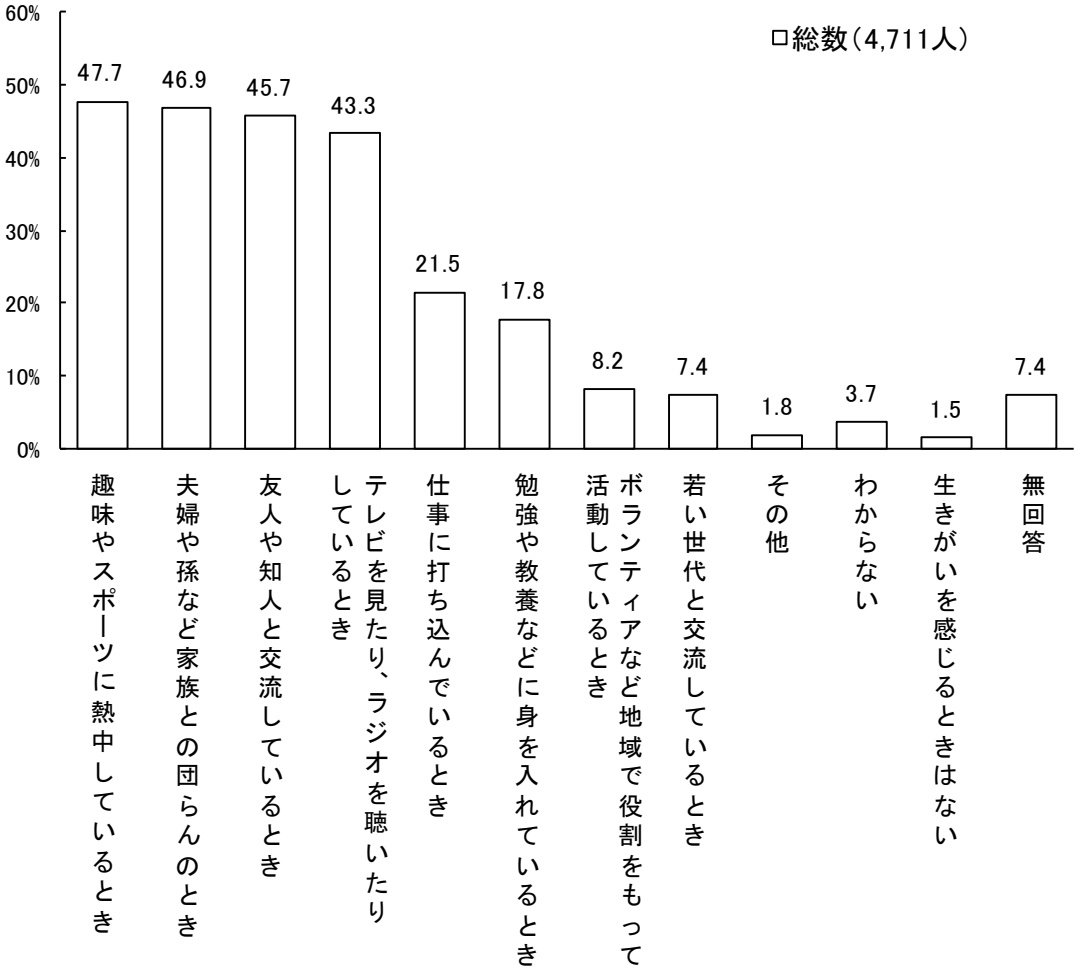
（1）生きがいを感じているか

現在、どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じているか聞いたところ、「十分感じている」と「感じている」と「多少感じている」を合わせた割合が 79.9％となっている。一方、「あまり感じていない」と「全く感じていない」を合わせた割合は 12.4％となっている。



（2）生きがいを感じるとき〔複数回答〕

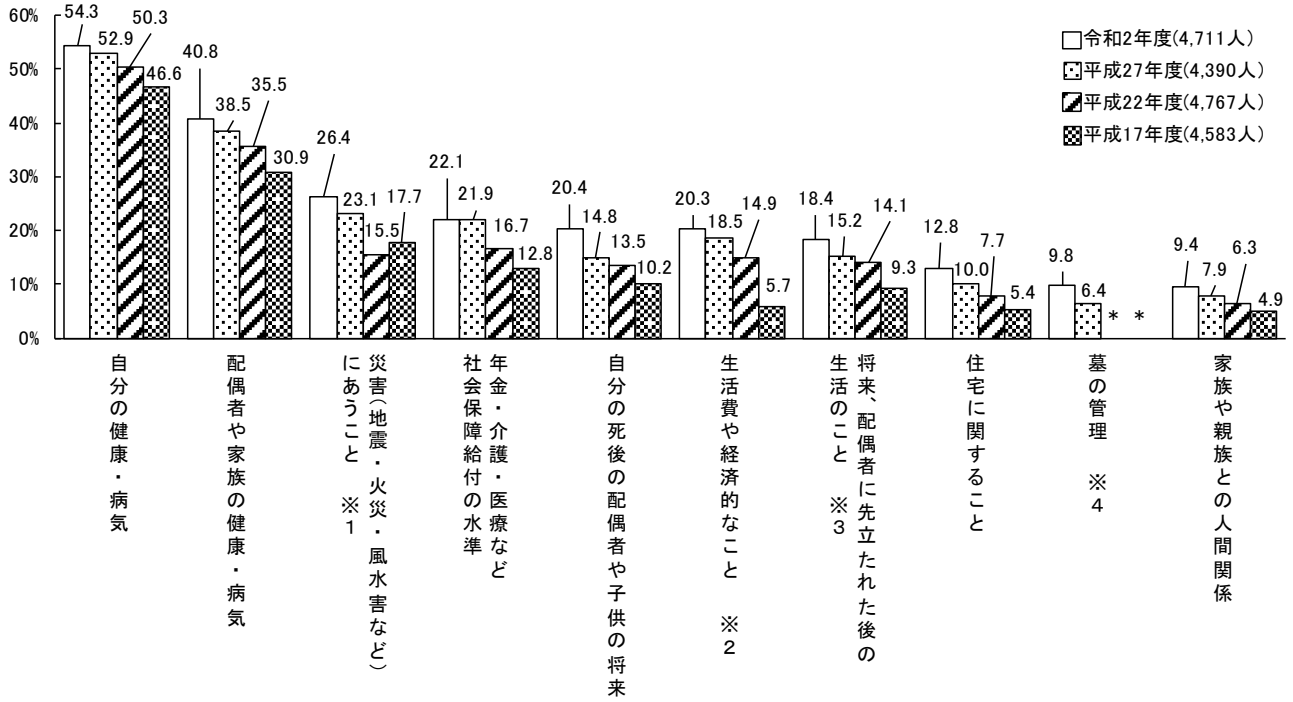
生きがい（喜びや楽しみ）を感じるときはどのようなときか聞いたところ、「趣味やスポーツに熱中しているとき」、「夫婦や孫など家族との団らんのとき」、「友人や知人と交流しているとき」、「テレビを見たり、ラジオを聴いたりしているとき」の割合がいずれも４割を超えている。

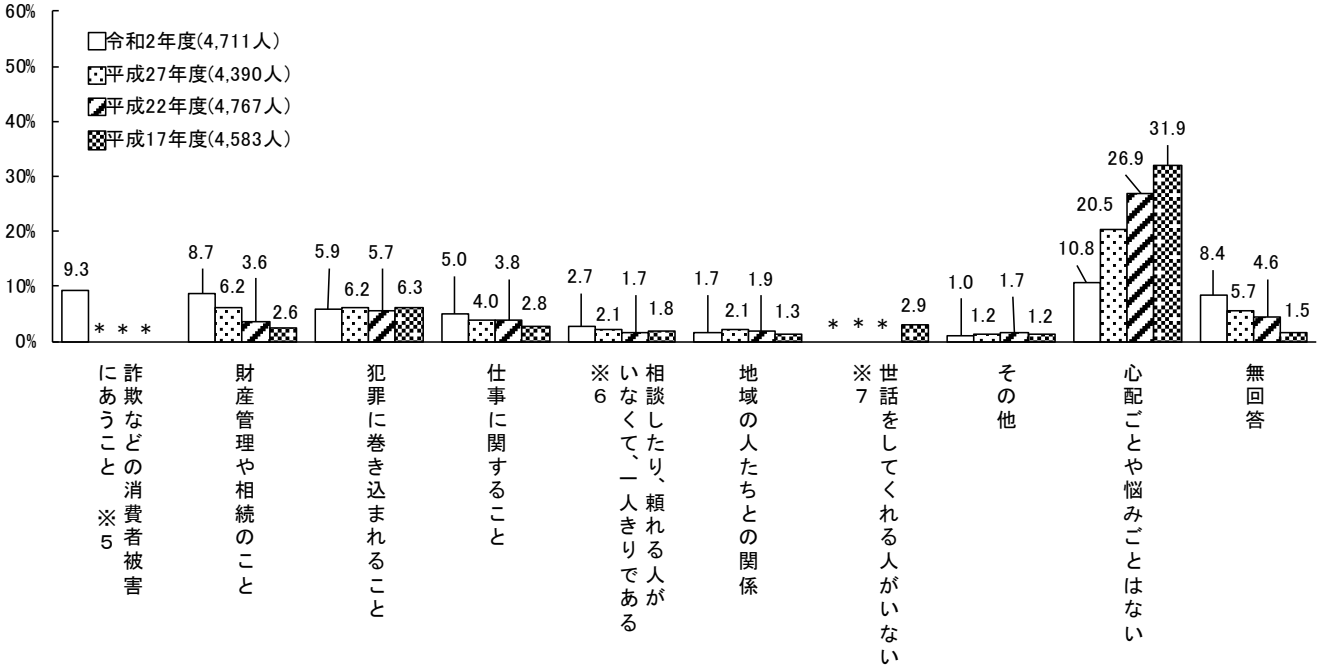


17　心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕

現在、心配ごとや悩みごとがあるか聞いたところ、「自分の健康・病気」の割合が 54.3%で最も高く、次いで「配偶者や家族の健康・病気」が 40.8%となっている。

一方、「心配ごとや悩みはない」の割合は、平成 17 年度調査（31.9%）から減少を続け、10.8%となっている。





注１）※１は、平成 17 年度から平成 27 年度調査では「地震などの災害にあうこと」としていた。

２）※２は、平成 17 年度調査では「家計が苦しい」としていた。

３）※３は、平成 17 年度調査では「配偶者に先立たれた後の生活のこと」としていた。

４）※４は、平成 17 年度及び平成 22 年度調査では選択肢を設けていなかった。

５）※５は、平成 17 年度から平成 27 年度調査では選択肢を設けていなかった。

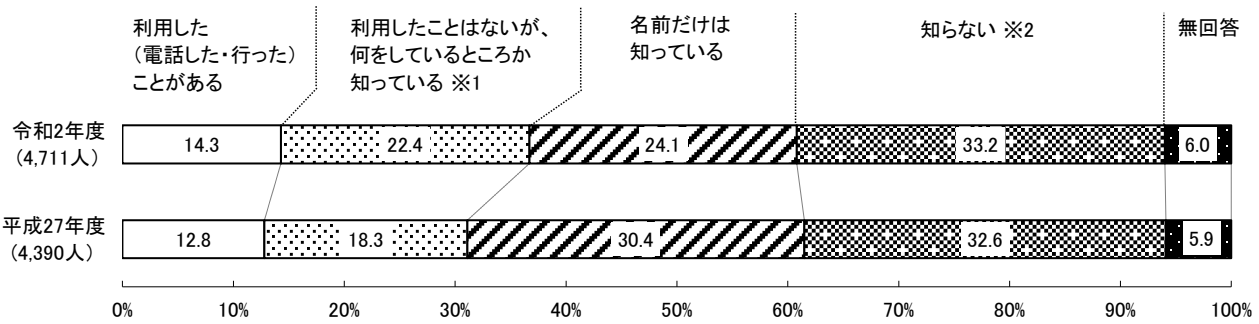
６）※６は、平成 17 年度調査では「頼れる人がいなくて、一人きりである」としていた。

７）※７は、平成 22 年度から令和２年度調査では選択肢を設けていない。

18　地域包括支援センターの認知度と利用状況

地域包括支援センターを利用したことがあるか聞いたところ、「利用した（電話した・行った）ことがある」の割合が 14.3%、「利用したことはないが、何をしているところか知っている」が 22.4%で、いずれも平成 27 年度調査（12.8%、18.3%）と比べて増加している。

一方、「知らない」の割合は 33.2%となっている。



注１）※１は、平成 27 年度調査では「何をしているところか知っている」としていた。

２）※２は、平成 27 年度調査では「知らなかった」としていた。

※地域包括支援センターとは

高齢者が住み慣れた地域で、健康で生き生きとした生活を送れるよう、主任ケアマネジャー、保健師、社会福祉士などの職員が高齢者やその家族などを総合的に支援する窓口のこと。

各区市町村が設置しており、地域によっては、親しみやすい名称で呼んでいる場合もある。

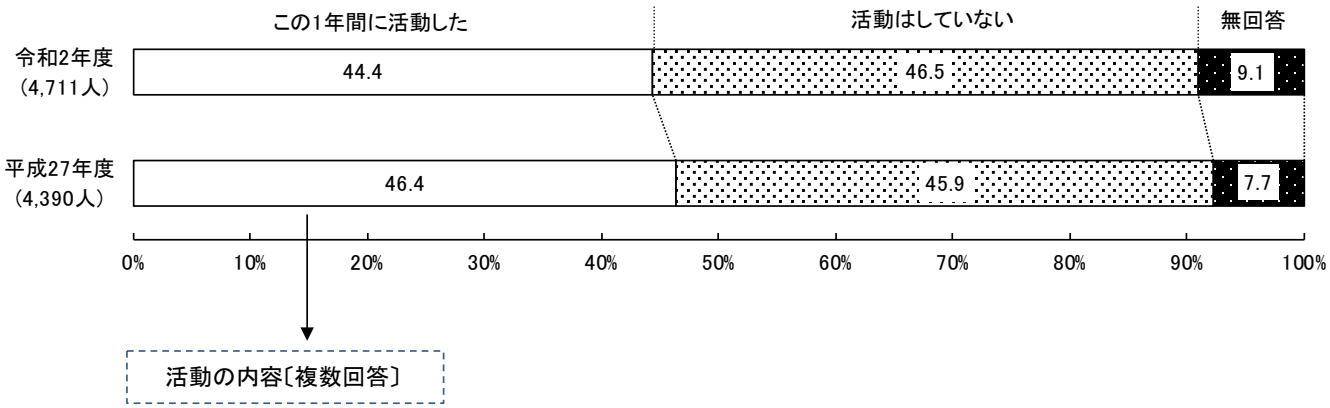
例：高齢者総合相談センター
　　高齢者あんしん相談センター
　　おとしより相談センター
　　あんしんすこやかセンター
　　熟年相談室　　など

19　１年間に行った社会参加の状況〔複数回答〕

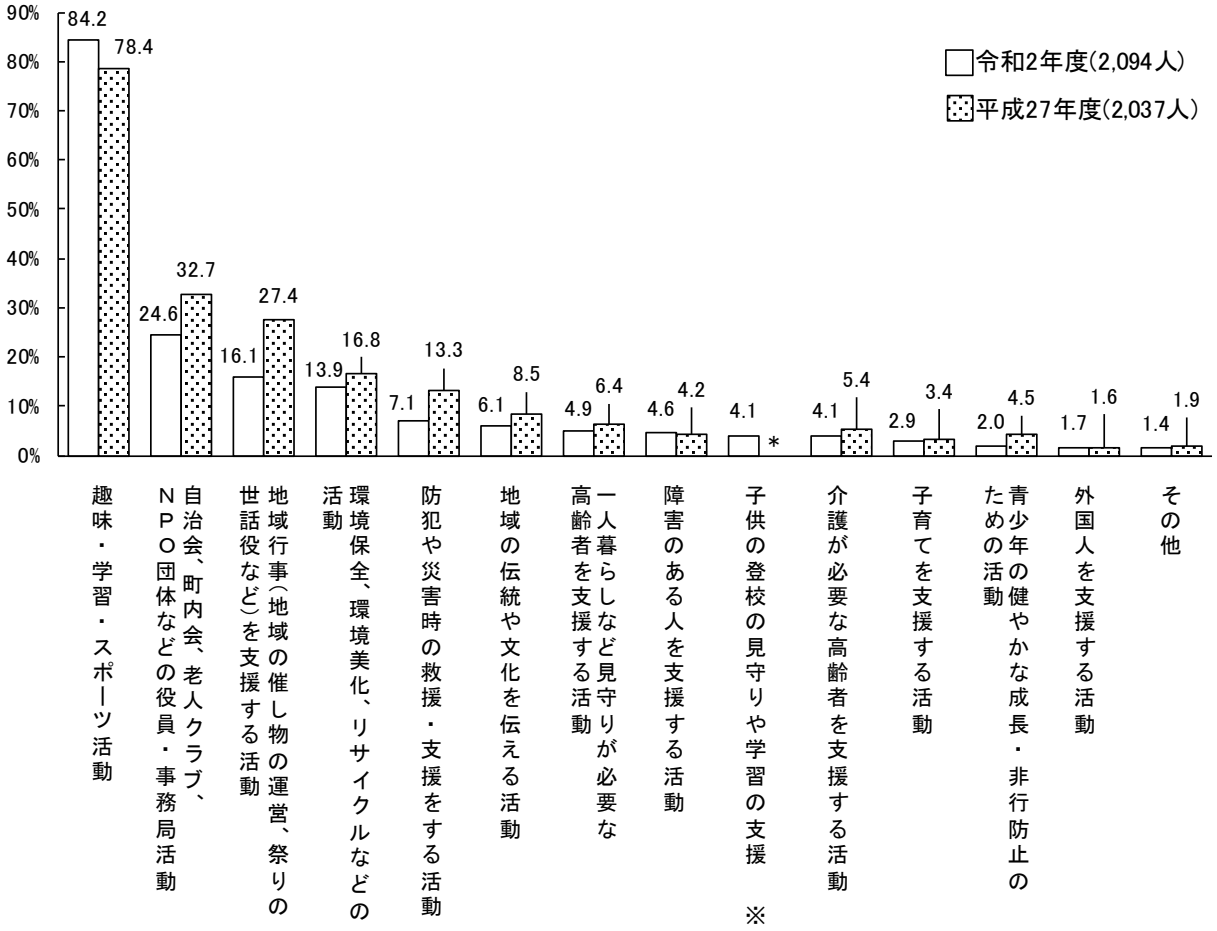
１年間に趣味やスポーツ、地域活動などを行ったか聞いたところ、「この１年間に活動した」の割合が 44.4％で、「活動はしていない」が 46.5％となっている。

「この１年間に活動した人」と回答した人（2,094 人）にどのような活動を行ったかについて聞いたところ、「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が 84.2％で最も高く、次いで「自治会、町内会、老人クラブ、ＮＰＯ団体などの役員・事務局活動」が 24.6％となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「地域行事（地域の催し物の運営、祭りの世話役など）を支援する活動」は 11.3 ポイント、「自治会、町内会、老人クラブ、ＮＰＯ団体などの役員・事務局活動」は 8.1 ポイント減少している。



活動の内容〔複数回答〕

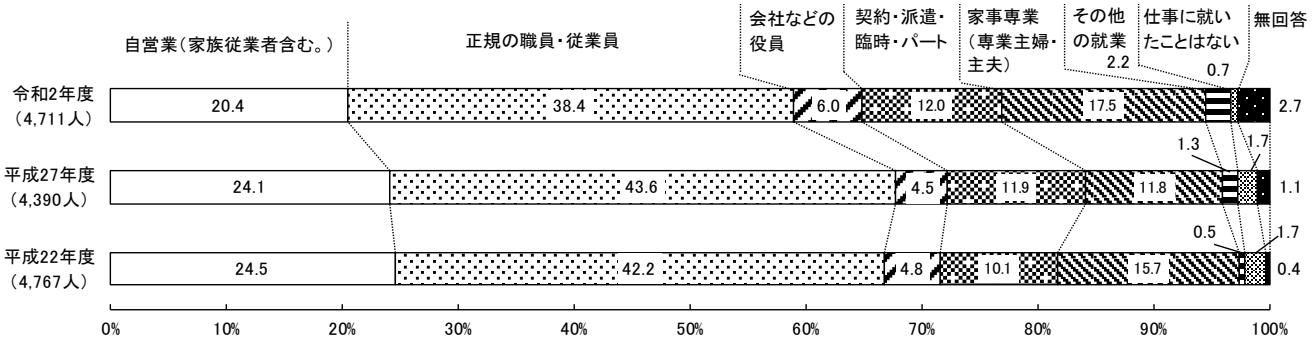


注）※は、平成 27 年度調査では選択肢を設けていなかった。

20　就労

（1）最長職業（雇用形態）

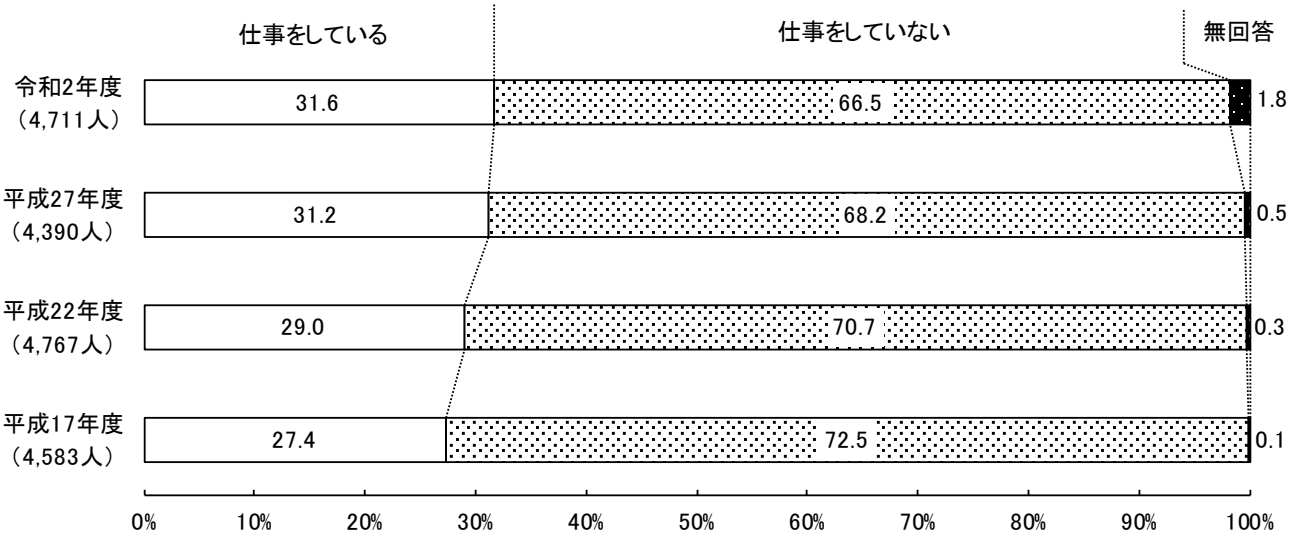
今までに一番長く従事した仕事を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が 38.4％で最も高く、次いで「自営業（家族従業者を含む。）」が 20.4％となっている。



（2）収入のある仕事の有無

現在、収入のある仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」割合が 31.6％で、「仕事をしていない」が 66.5％となっている。

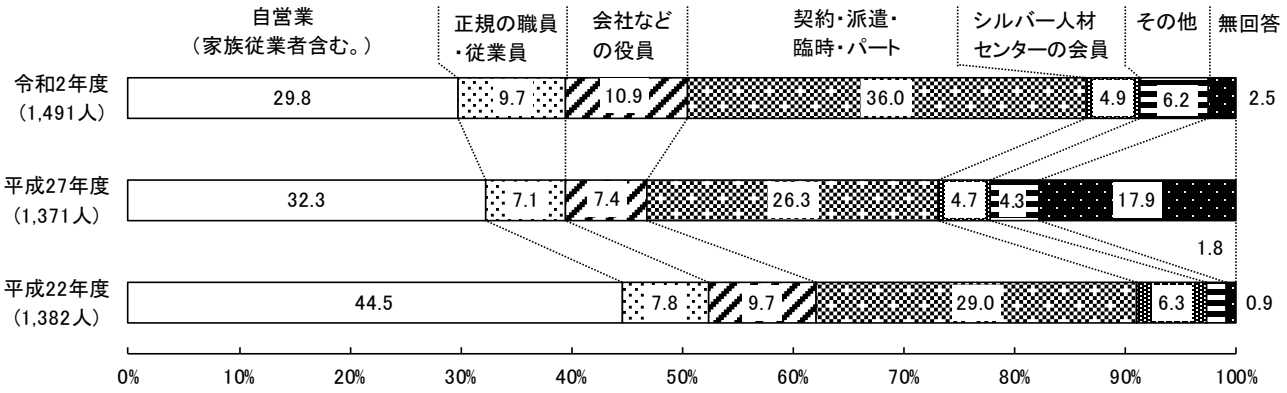
平成 17 年度調査と比べると、「仕事をしている」の割合は 4.2 ポイント増加している。



（3）収入のある仕事の内容

現在、「仕事をしている」と回答した人(1,491 人)に仕事の内容を聞いたところ、「契約・派遣・臨時・パート」の割合が 36.0%で最も高く、次いで「自営業（家族従業者を含む。)」が 29.8%となっている。

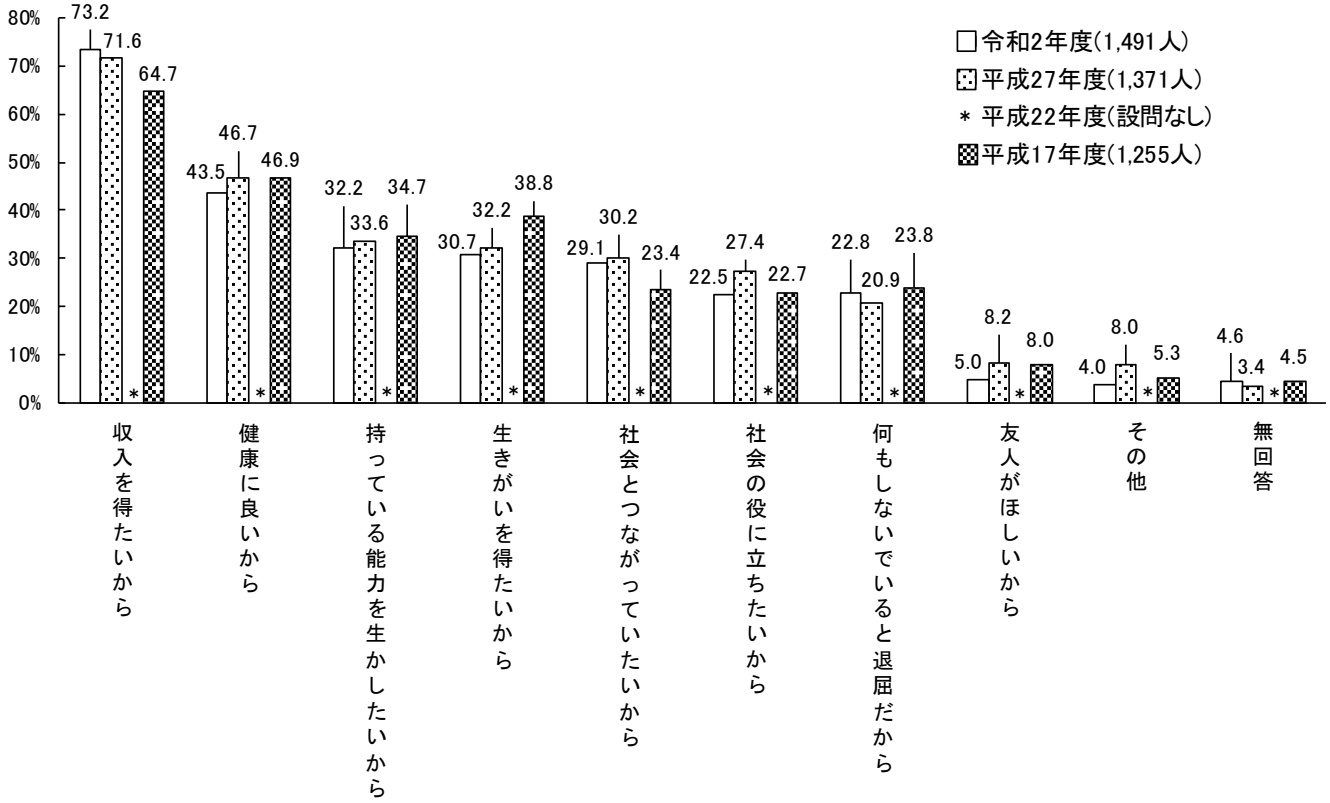
平成 27 年度調査と比べて、「契約・派遣・臨時・パート」の割合は 9.7 ポイント増加している。



（4）仕事をしている理由〔複数回答〕

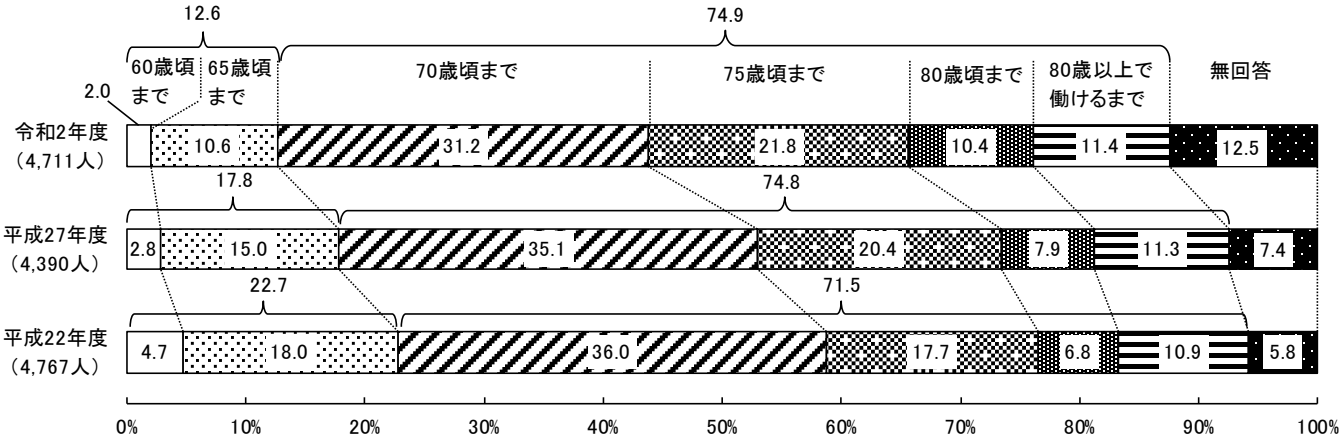
現在、「仕事をしている」と回答した人(1,491 人)に仕事をしている理由を聞いたところ、「収入を得たいから」の割合が 73.2%で最も高く、次いで「健康に良いから」が 43.5%となっている。

平成 17 年度調査と比べて、「収入を得たいから」の割合は 8.5 ポイント増加している。



（５）理想の就業年齢（何歳頃まで働ける社会が理想か）

何歳頃まで働ける社会が理想であるか聞いたところ、「70 歳頃まで」の割合が 31.2%、「75 歳頃まで」が 21.8%、「80 歳頃まで」が 10.4%、「80 歳以上で働けるまで」が 11.4%で、合わせて 74.9%となっている。



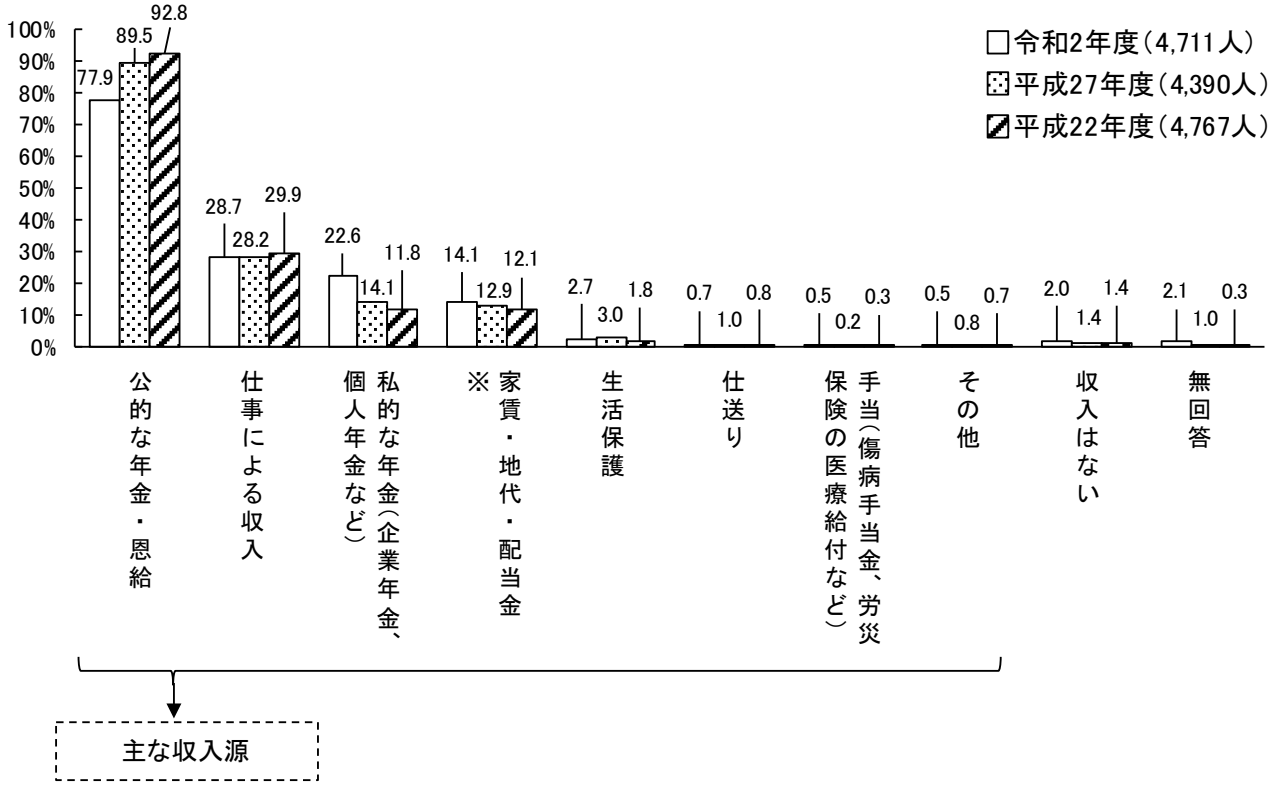
21　経済状況

（1）収入の種類〔複数回答〕・主な収入源

2019 年中の収入の種類を聞いたところ、「公的な年金・恩給」の割合が 77.9%で最も高く、次いで「仕事による収入」が 28.7%、「私的な年金（企業年金、個人年金など)」が 22.6%となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「公的な年金・恩給」の割合は 11.6 ポイント減少している一方、「私的な年金（企業年金、個人年金など)」が 8.5 ポイント増加している。

また、収入の種類を回答した人（4,515 人）に主な収入源を聞いたところ、「公的な年金・恩給」の割合が 60.0%で最も高く、次いで「仕事による収入」が 16.9%となっている。

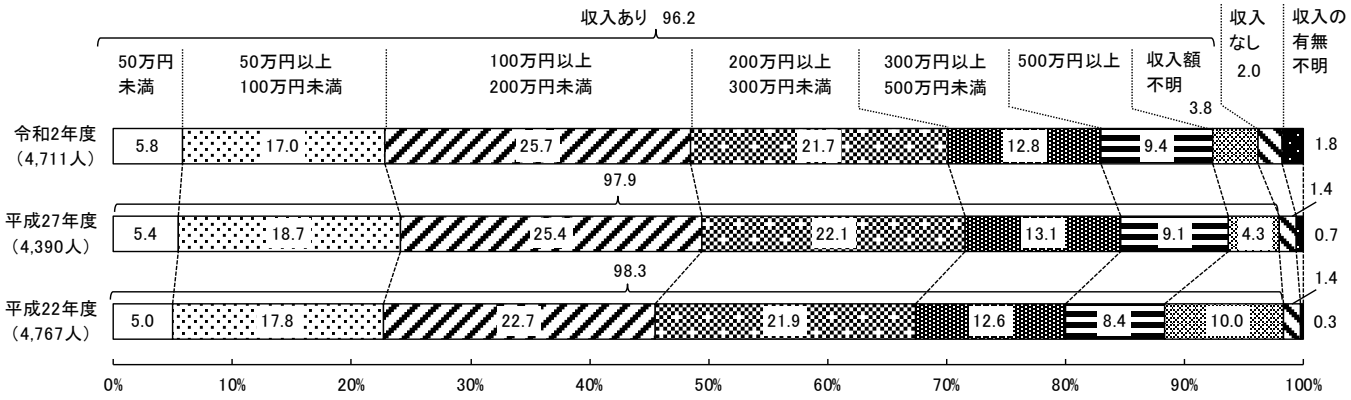


	総数	公的な年金・恩給	仕事による収入	私的な年金（企業年金、個人年金など）	家賃・地代・配当金 ※	生活保護	仕送り	手当（傷病手当金、労災保険の医療給付など）	その他	無回答
令和2年度	100.0 (4,515)	60.0	16.9	6.8	5.3	2.1	0.2	0.2	0.3	8.2
平成27年度	100.0 (4,283)	69.9	16.3	2.2	6.9	2.6	0.3	0.0	0.4	1.4
平成22年度	100.0 (4,686)	73.7	15.3	1.8	6.2	1.6	0.3	0.1	0.3	0.6

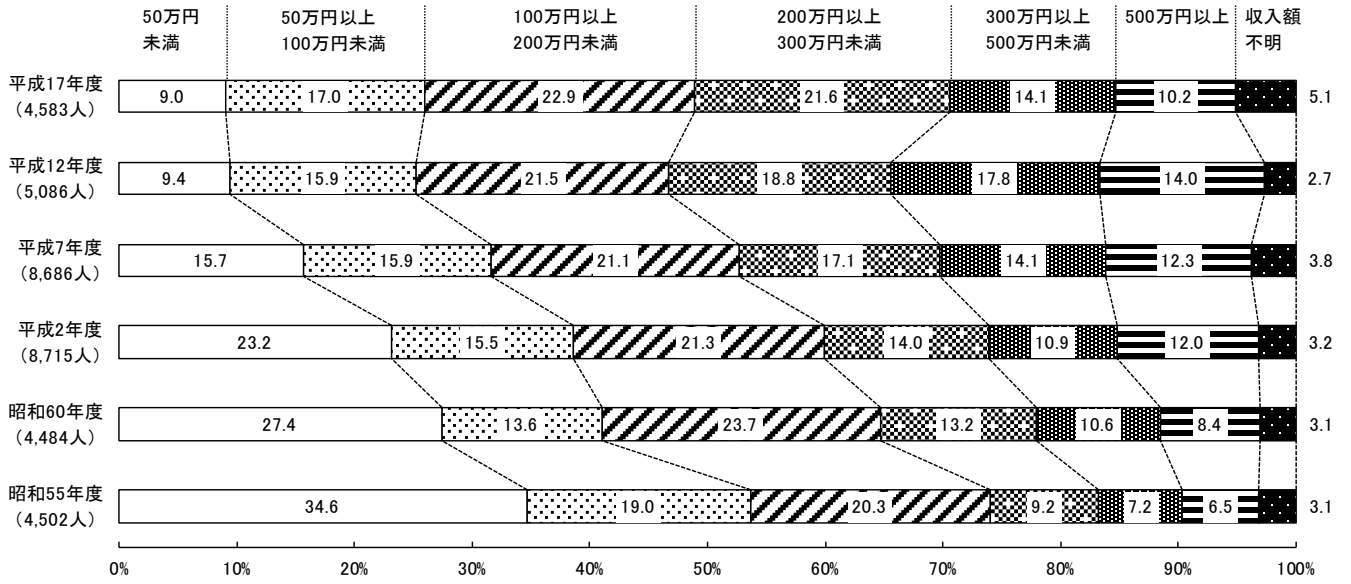
注）※は、平成 22 年度調査では「家賃・地代・利子・配当金」としていた。

（2）本人の年収

対象者個人の 2019 年中の総収入（税込み）を聞いたところ、「100 万円以上 200 万円未満」の割合が 25.7％で最も高く、次いで「200 万円以上 300 万円未満」が 21.7％、「50 万円以上 100 万円未満」が 17.0％となっている。



【参考】

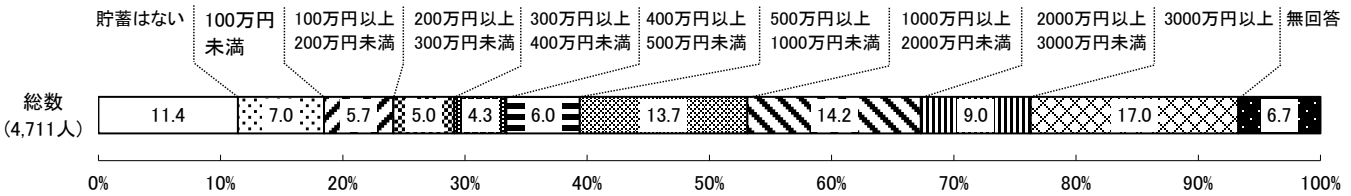


注）平成 17 年度調査以前は、質問方法が異なるため、収入のない人は、「50 万円未満」又は「収入額不明」に含まれる。

（3）世帯の貯蓄

対象者の世帯の貯蓄（預貯金・信託・債権・株式・保険など）はおおよそいくらか聞いたところ、「3,000 万円以上」の割合が 17.0％で最も高く、次いで「1,000 万円以上 2,000 万円未満」が 14.2％、「500 万円以上 1,000 万円未満」が 13.7％となっている。

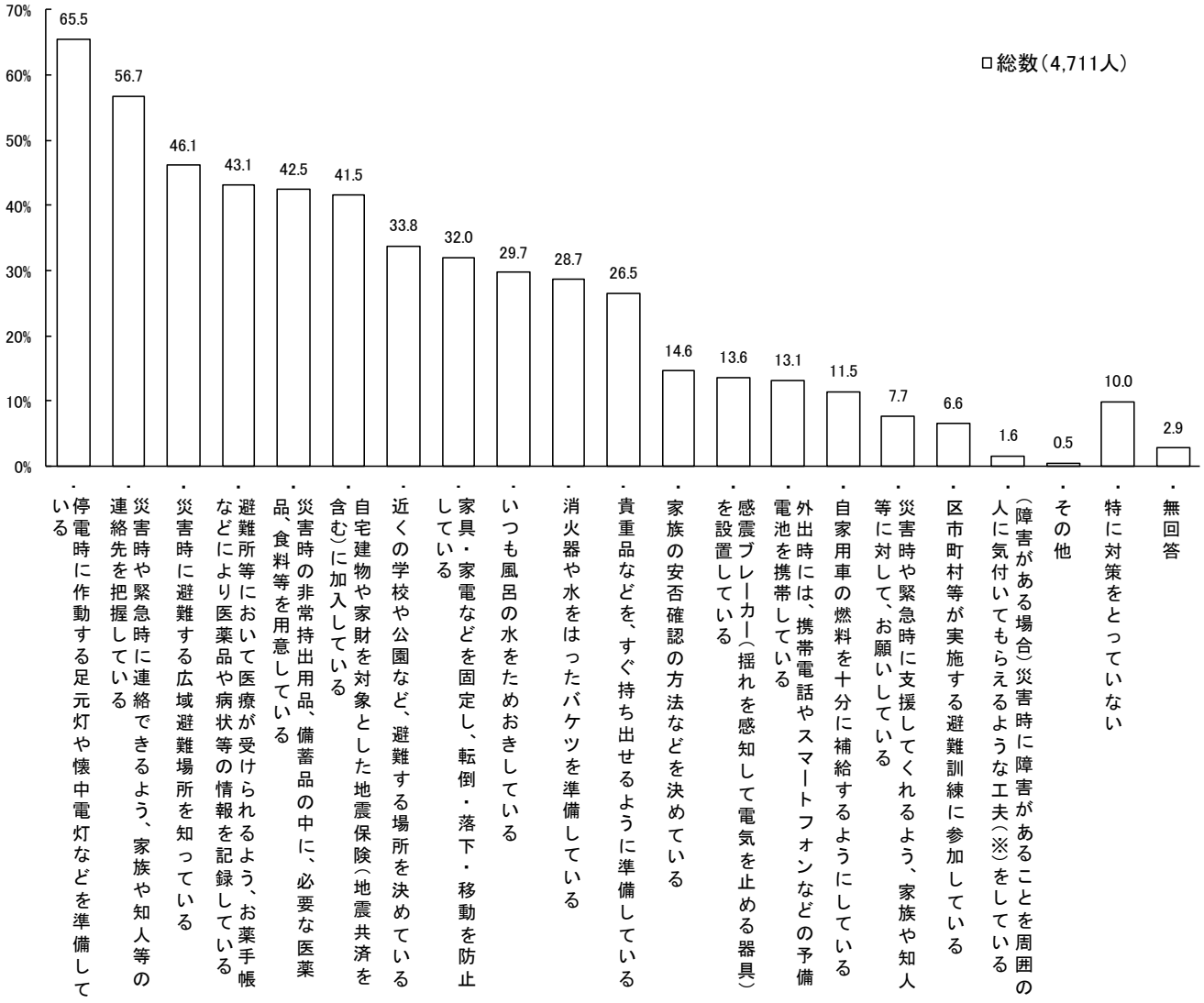
一方、「貯蓄はない」の割合は 11.4％となっている。



22　災害に備えた対策〔複数回答〕

災害に備えた対策をとっているか聞いたところ、「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」の割合が 65.5%で最も高く、次いで「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」が 56.7%となっている。

一方、「特に対策をとっていない」の割合は 10.0%となっている。

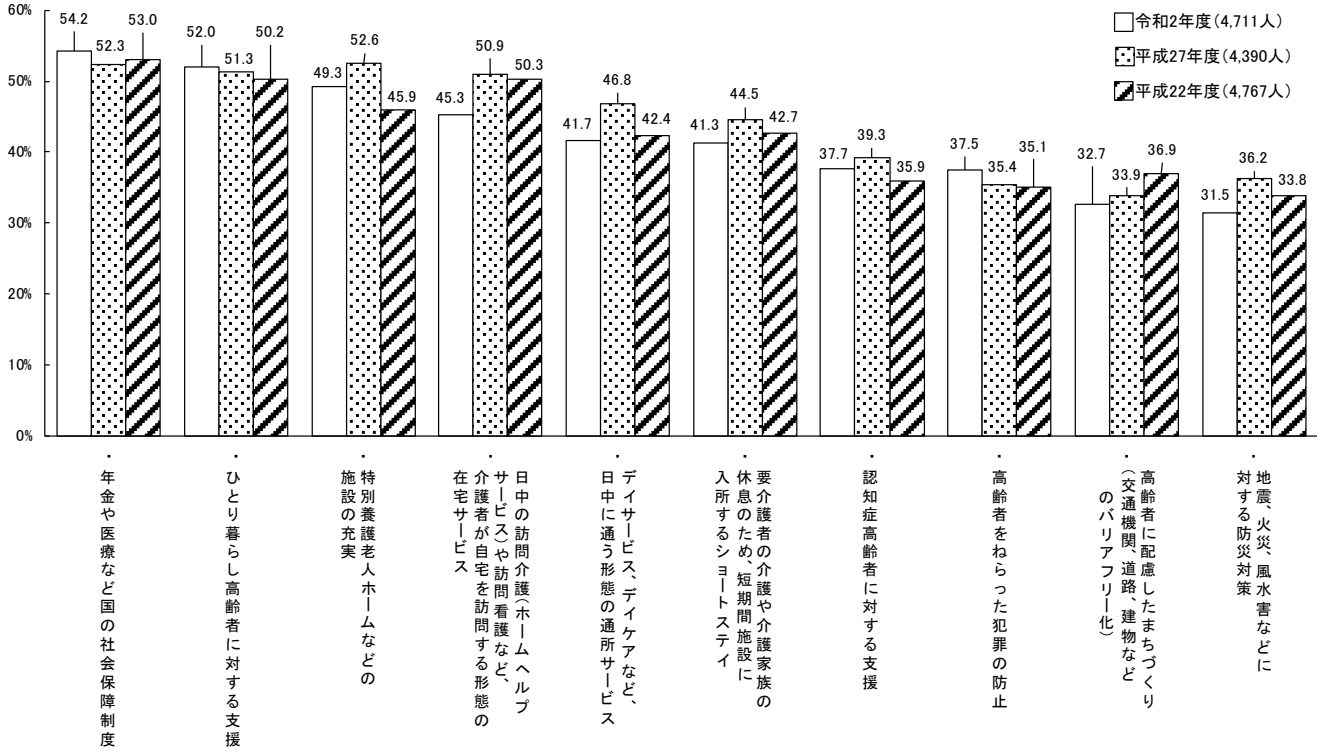


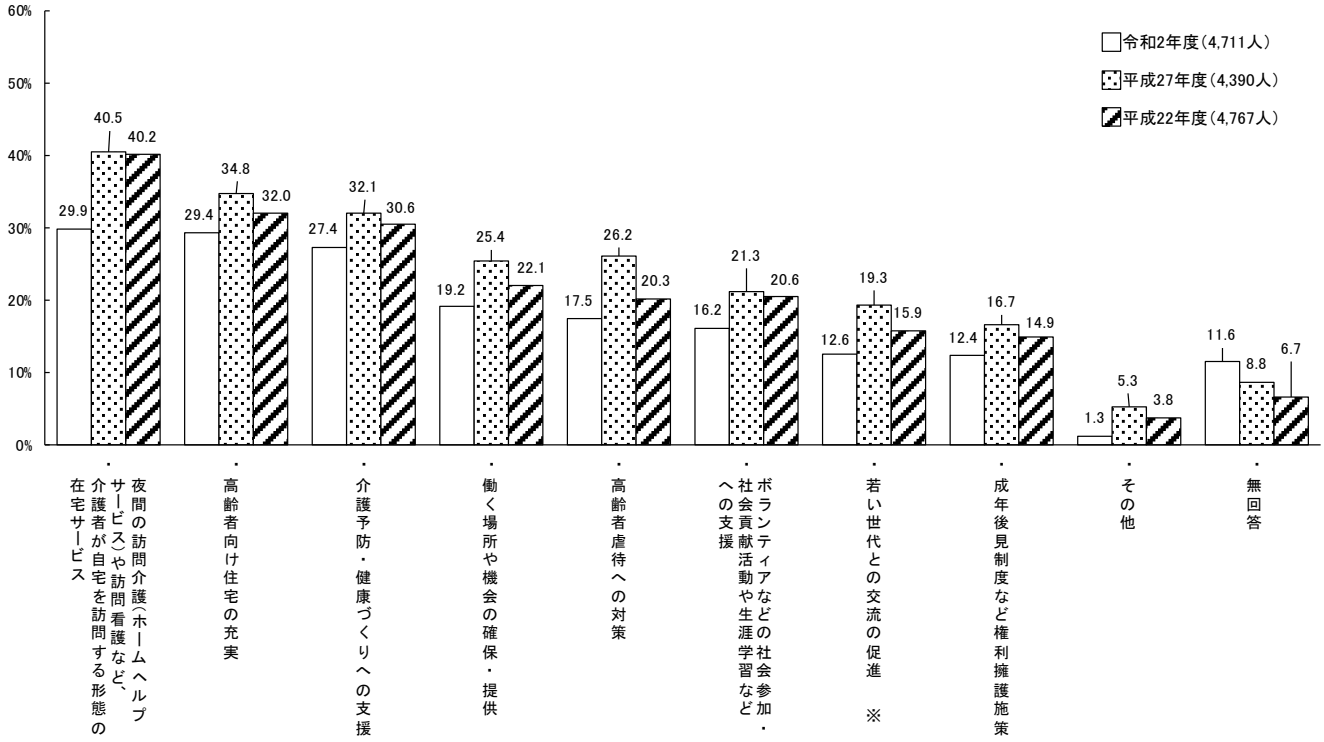
注）※の「障害があることを周囲の人に気付いてもらえるような工夫」とは、ヘルプマーク、ヘルプカード、災害バンダナ等を指す。

23　高齢者に対する必要な施策や支援〔複数回答〕

大切だと思う高齢者に対する施策や支援は何か聞いたところ、「年金や医療など国の社会保障制度」の割合が 54.2%で最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者に対する支援」が 52.0%、「特別養護老人ホームなどの施設の充実」が 49.3%となっている。

平成 27 年度調査と比べて、「夜間の訪問介護（ホームヘルプサービス）や訪問看護など、介護者が自宅を訪問する形態の在宅サービス」の割合は 10.6 ポイント減少し、29.9%となっている。





注）※は、平成 22 年度調査では「世代間交流の促進」としていた。

24　新型コロナウイルス感染症に関する自由意見

新型コロナウイルス感染症の感染拡大について、生活への影響や不安に思うことを自由に書いてもらったところ、1,566 人から意見が寄せられた。その中の一部の意見について、趣旨を損なわないようにまとめた上で掲載する。

○家族、友人関係

・　新型コロナウイルス感染が発生してからは、外出もできず、娘にも孫にも会えず残念だ。普段は５月とお盆には家族が来て、とてもにぎやかになる。孫は、東京の祖母に感染させたら困ると、３月以来１度も顔を出さず、さびしい。(70 代・女性)

・　子供が在宅勤務となり、家にいるのでうれしかった。(70 代・男性)

・　同居している高齢の母の見守りをしているが、感染の予防をしながら対応しているので、新型コロナウイルス感染が長引くと、不安しかない。在宅での介護は本人（母）の希望だが、家族の努力で補えるものでもないので、無事に終息を待つしかない。(60 代・女性)

・　親族、友人、知人との交流を心がけ、できるだけ外出するようにしていたが、今はそれができなくなった。また、自粛の考え方の違いから、疎遠になり、関係も不安を感じる。
　家族もテレワークになり、生活習慣が変わり、なじむのにとまどいを感じる。(80 代・女性)

・　有料老人ホームに入居していた母には、面会禁止のため会うことができなかった。日々の生活に追われているうちに日が過ぎ、ホームの方から連絡を受けたときは、ベッドでの生活になっていたようだ。それまでの外出もできず、面会者もなく１日ベッドで過ごしているうちに憂鬱状態になってしまったようで、残念なことに、誕生日を迎えてすぐに他界した。仕方がないとはいえ、また、ホームでも最大の努力はしてくれたと思うが、新型コロナウイルスの影響がなければもう少し長生きしたかなと思う。(60 代・女性)

○身体の衰え

・　外出を控えた結果、足腰の衰えを感じる。今までより確実に弱くなっている。(80 代・男性)

・　健康のため、スポーツジムに行っていたが、感染が心配なので、３月から行っていない。健康面が心配だ。(70 代・男性)

○医療

・　高齢者なので、外出して新型コロナウイルスに感染したら家族にも社会にも迷惑がかかるため、治療を受けるのを極力控えている。(80 代・女性)

・　家族が新型コロナウイルス感染をこわがるため、訪問治療を断っている。(80 代・女性)

○経済面

・　現在、月２～３回通院している。新型コロナウイルスに感染した場合の通院拒否を避けるため、通院には電車ではなく、タクシーを利用しているが、往復２万５千円かかってしまう。（80 代・男性）

・　収入主である子供が新型コロナウイルス感染拡大の影響で失業した。自分も通院で薬代などがかかる状態である。困ったときは自治体に相談するつもりだが、福祉制度がいろいろあると安心だ。相談できるところがもっと身近にできるといい。（80 代・男性）

・　定年退職したばかりだが、年金生活に入ったこともあり、家計への新型コロナウイルスの影響は感じなかった。（60 代・男性）

○その他

・　地域の方の見守りをしているが、外出自粛のときは電話・メールで見守り活動を続けた。（60 代・女性）

・　新型コロナウイルスの不安が大きく、デイサービスへ行けていない。（80 代・女性）

・　自粛中は家の片づけをしたり、家庭菜園で収穫したりして楽しんだ。外出はなるべく控えていたため、不安はそんなに感じなかった。（60 代・女性）

・　好きな旅行にも行けずストレスがたまる。ＧｏＴｏトラベルやイートは、若い人たちのようにうまく使えない。ちょっと不公平だと思う。（70 代・男性）

・　新型コロナウイルス感染拡大が長引くことにより、気がゆるまないよう、メディア等での注意を続けていってほしい。（70 代・女性）

・　経済損出軽減のためのＧｏＴｏトラベルなどが始まってから、我々の新型コロナウイルスに対する恐怖・不安が全体的に薄れてきている感じがする。自分でも近所の買物時など、マスクを忘れて外出することがある。また、特に若い人たちのマスクなしでの会食などが広がっている。その点、確実に感染対策をしている高齢者が多いことは不幸中の幸いであると思う。
　長期にわたる自粛生活で認知症や鬱が増加することに、なんらかの方法をとる必要があると思う。（80 代・女性）